2009年 春モデル

B6FJ-0121-01

S/C50, S/C50N

FMV取扱ガイド

1 各部の名称と働き

2 パソコンの取り扱い

3 周辺機器の設置／設定／増設

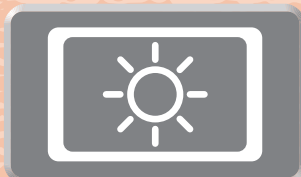
4 お手入れ

5 仕様一覧

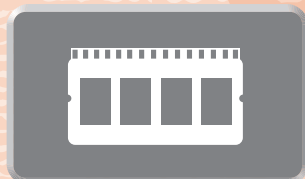
●この本で説明している主な内容

電源の入れ方／切り方

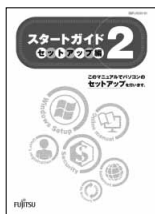
フラットポイント

音量調節

明るさ調節

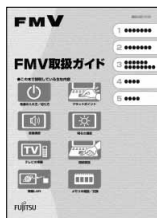
指紋認証

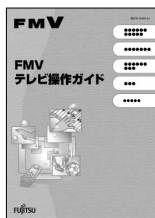
無線LAN
（無線LAN搭載機種のみ）

メモリの増設／交換

冊子のマニュアル

スタートガイド（1 設置編　2 セットアップ編）

使い始めるまでの準備はこれでバッチリ

●『スタートガイド１　設置編』
●『スタートガイド２　セットアップ編』

FMV取扱ガイド

● 各部の名称と働き
● パソコンの取り扱い
　・電源の入れ方/切り方
　・音量の調節
　・輝度の調節　など
● 周辺機器の設置/設定/増設
● お手入れ
● 仕様一覧

FMVテレビ操作ガイド

「DigitalTVbox」搭載機種に添付

● テレビについて
　・テレビの見かた
　・録画のしかた
　・保存のしかた
● テレビなどに関するQ&A

トラブル解決ガイド

● 安心サポート機能
　・FMVサポートナビ
　・トラブル解決ナビ
● バックアップ
● パソコンを復元する（リカバリ）
● 廃棄・リサイクル
● Q&A

サポート&サービスのご案内

● ユーザー登録・特典
● AzbyClubのご案内
● 困ったときは
● 故障かな？ と思ったときは
● お問い合わせ先
● 操作指導サービス
● お問い合わせ票/修理依頼票

この他にも、マニュアルや重要なお知らせなどの紙、冊子類があります。

画面で見るマニュアル

説明している主な内容

● パソコンの基本
● セキュリティ対策
● インターネット／Eメール
● FMV使いこなし事例集
● パソコン本体の取り扱い
● 周辺機器の接続
● 添付ソフトウェア一覧
● 困ったときのQ&A

この他にも、役に立つ情報が盛りだくさんです。

テクニカルコミュニケーター協会が定める「画面で見るマニュアル標準マーク」です。

画面で見るマニュアルの始め方

（スタート）→「すべてのプログラム」→「FMV画面で見るマニュアル」の順にクリック

参照の探し方

冊子のマニュアルの本文内に、≫「＊＊＊＊＊＊(文書番号)」とある場合は『画面で見るマニュアル』で検索してご覧ください。

参照 Windowsの画面について

『画面で見るマニュアル』≫「920010」で検索
→「Windowsの画面と各部の名称」

文書番号(6桁の数字)を入力して「検索する」をクリック

❶ 文書番号(6桁の数字)を入力
❷「検索する」をクリック → **文書番号の内容が表示**

「目次」、「検索」、「索引」など、他にもいろいろな探し方があります。
『画面で見るマニュアル』について詳しくは、画面右上の [使い方] をクリックしてください。

目次

安全にお使いいただくために 4
このマニュアルの表記について 4

第 1 章　各部の名称と働き

1　パソコン本体前面 8
2　パソコン本体上面 10
3　パソコン本体側面 11
パソコン本体左側面 11
パソコン本体右側面 12
4　パソコン本体下面 13
5　キーボード 14
6　状態表示 LED 15

第 2 章　パソコンの取り扱い

1　電源を入れる／切る 18
AC アダプタを接続する 18
電源を入れる 20
電源を切る 23
パソコンを待機状態にする／復帰させる 26
AC アダプタを取り外す 27
2　バッテリで使う 29
バッテリを充電する 29
バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプの確認をする 30
内蔵バッテリパックを交換する 32
3　フラットポイントを使う 35
フラットポイントについて 35
フラットポイントの使い方 36
4　音量を調節する 40
5　液晶ディスプレイの明るさを調節する 41
6　CD/DVD を使う 42
このパソコンでできること 42
このパソコンで使えるディスク／使えないディスク 43
ディスクをパソコンにセットする／取り出す 46
7　メモリーカードを使う 51
メモリーカードをお使いになるうえでのご注意 51
使えるメモリーカード 52
メモリーカードを差し込む／取り出す 53
8　指紋認証を使う 56
指紋認証について 56
指紋認証を使う 63
指紋センサーについての注意 64
指紋認証をお使いになる場合の注意 65
9　LAN（有線 LAN）機能を使う 66
このパソコンの LAN 機能 66
インターネットを使うときの接続例 66
LAN（有線 LAN）をお使いになる場合 67
10　無線 LAN 機能を使う 68
無線 LAN 搭載機種のみ
このパソコンの無線 LAN 機能 68
インターネットを使うときの接続例 68
無線 LAN をお使いになる場合 69

画面で見るマニュアル ｜ 添付の冊子マニュアル ▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

11 Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使う 70
Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは 70
必要なものを用意する 70
12 Web カメラを使う 71
Web カメラでできること 71
Web カメラを使うソフトウェアの起動方法と使い方 71

第３章　周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器をお使いになる場合 74
周辺機器とは？ 74
周辺機器を取り付けると 74
周辺機器を取り付けるには 75
周辺機器の取り扱い上の注意 76
2 メモリの増設／交換 77
必要なものを用意する 77
メモリの組み合わせ表 77
メモリ取り扱い上の注意 79
メモリを増やす 80
メモリ容量を確認する 82

第４章　お手入れ

1 FMV のお手入れ 86
パソコン本体および添付品のお手入れ 86
液晶ディスプレイのお手入れ 87
CD/DVD ドライブのお手入れ 87
空冷用通風路のお手入れ 88

第５章　仕様一覧

1 パソコン本体の仕様 92
仕様一覧の注記について 96

索引 99

安全にお使いいただくために

本製品には『安心してお使いいただくために』というマニュアルが添付されています。本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
お使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

このマニュアルの表記について

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
Point	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
••➤	参照先を記述しています。
	冊子のマニュアルを表しています。
	画面で見るマニュアルを表しています。 （起動方法について、このマニュアルの巻頭でご案内しています。）
	CD-ROM/DVD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows Vista® Home Premium with Service Pack 1	Windows または Windows Vista または Windows Vista Home Premium または Windows Vista Home Premium with SP1
Windows Vista® Ultimate with Service Pack 1	Windows または Windows Vista または Windows Vista Ultimate または Windows Vista Ultimate with SP1
Windows® Internet Explorer® 7	Internet Explorer 7 または Internet Explorer
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法
スーパーマルチドライブ	CD/DVD ドライブ
ＦＭＶ 画面で見るマニュアル V1.6	画面で見るマニュアル
ExpressCard™/34 モジュール	ExpressCard

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Aero、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、インテル Core、インテル Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
HDMI、HDMI ロゴ、および High-De.nition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、「マジックゲート」 および は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
SD ロゴおよび SDHC ロゴは商標です。
ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association（PCMCIA）の商標で、富士通へライセンスされています。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

ドルビー、DOLBY、ダブル D 記号、AC-3 およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。

第1章

各部の名称と働き

パソコンの各部の名称と働きについて説明しています。
ここでは、代表的な機能を説明しています。

1　パソコン本体前面 8
2　パソコン本体上面 10
3　パソコン本体側面 11
4　パソコン本体下面 13
5　キーボード 14
6　状態表示 LED 15

1

パソコン本体前面

指紋センサー
指をスライドさせることで、次の機能を使うことができます。
- 画面のスクロール（→P.38）
- 指紋認証（→P.63）

フラットポイント
マウスポインタを操作します。（→P.35）

液晶ディスプレイ
入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。

状態表示 LED
パソコンの状態を表示します。（→P.15）

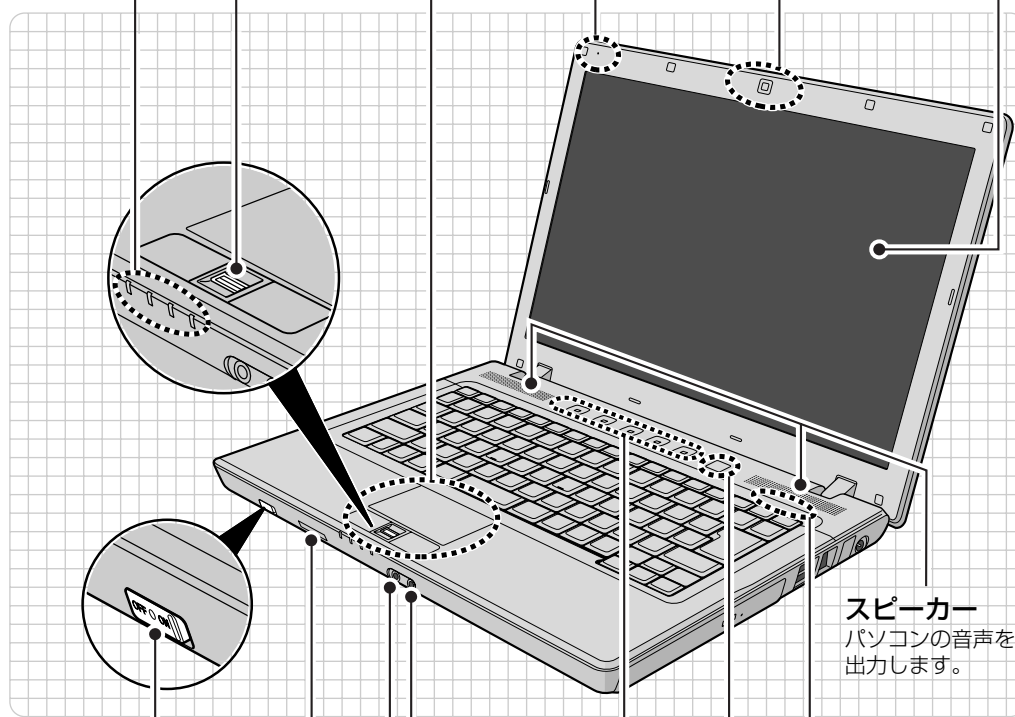
内蔵マイク
テレビ電話用ソフトを利用して、音声通話ができます。

Web（ウェブ）カメラ
内蔵のマイク、テレビ電話用ソフトと合わせて使うことで、テレビ電話ができます。（→P.71）

スピーカー
パソコンの音声を出力します。

状態表示 LED（エルイーディー）

ワンタッチボタン

電源ボタン（⏻）

ワイヤレススイッチ
無線 LAN の電波の発信／停止を切り替えます。[注 1]
また、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信／停止も同時に切り替えます。

ダイレクト・メモリースロット
SDメモリーカード、メモリースティックの差込口です。
miniSD[ミニエスディー]カードやメモリースティックDuoなどは、アダプタを使用してください。
（→P.51）

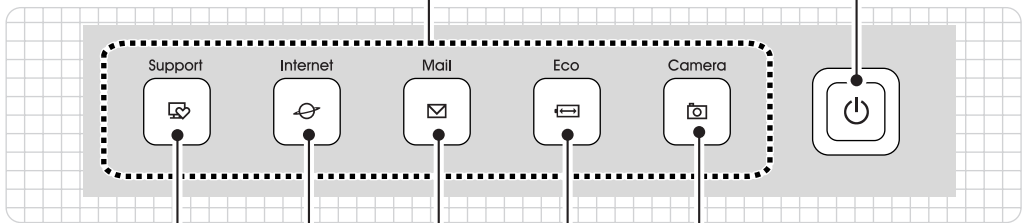
マイク・ラインイン兼用端子（🎤）
外径3.5mmのミニプラグに対応した市販のパソコン用マイクを接続できます。また、設定を変更することで、ライン入力端子としても使用できます。

ヘッドホン・ラインアウト兼用端子（🎧）
外径3.5mmのミニプラグに対応した市販のヘッドホンを接続できます。また、設定を変更することで、ライン出力端子としても使用できます。

注 1：無線 LAN 搭載機種のみ

ワンタッチボタン
アイコン部分に軽く触れると、アイコンが光り、決められたソフトウェアが起動します。
起動するソフトウェアを変更することもできます。

電源ボタン（⏻）
パソコンの電源を入れたり、スリープ／復帰（レジューム）させます。（→ P.20）

Support　Internet　Mail　Eco　Camera

Camera（カメラ）ボタン
Webカメラを使うためのソフトを起動します。（→ P.71）

Eco（エコ）ボタン
ボタンを押すごとに省電力モードと通常モードが切り替わります。
省電力モードについては、次のマニュアルもご覧ください。

参照　省電力モードについて

『画面で見るマニュアル』»「000410」で検索
→「省電力モードを使う」

Mail（メール）ボタン
メールソフトを起動します。

Internet（インターネット）ボタン
「Internet Explorer［インターネットエクスプローラ］」を起動します。

Support（サポート）ボタン
- Windows 起動時
  「FMV サポートナビ」が起動し、「Q&A」や「日頃のメンテナンス」などのサポート機能を簡単に始めることができます。
- シャットダウン時
  Windows が起動しないときにも、「ハードウェア診断」や「マイリカバリ」などトラブル解決に役立つサポート機能を使うことが出来ます。
  （※スリープ中の場合には「FMV サポートナビ」が起動します。）

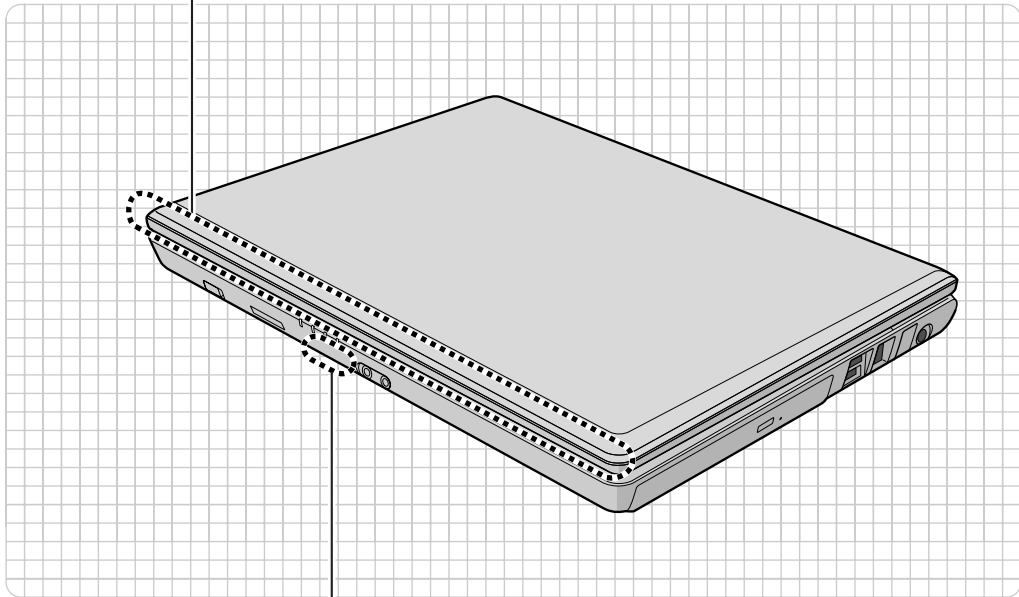
詳しくは『トラブル解決ガイド』→「充実のサポート機能で安心・快適」をご覧ください。

パソコン本体前面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000270」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」

パソコン本体上面

内蔵無線 LAN（ラン） アンテナ
無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。[注 1]

内蔵 Bluetooth（ブルートゥース） ワイヤレステクノロジーアンテナ
Bluetooth ワイヤレステクノロジーアンテナが内蔵されています。（→ P.70）

注 1：無線 LAN 搭載機種のみ

パソコン本体上面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000260」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体上面」

3
パソコン本体側面

パソコン本体左側面

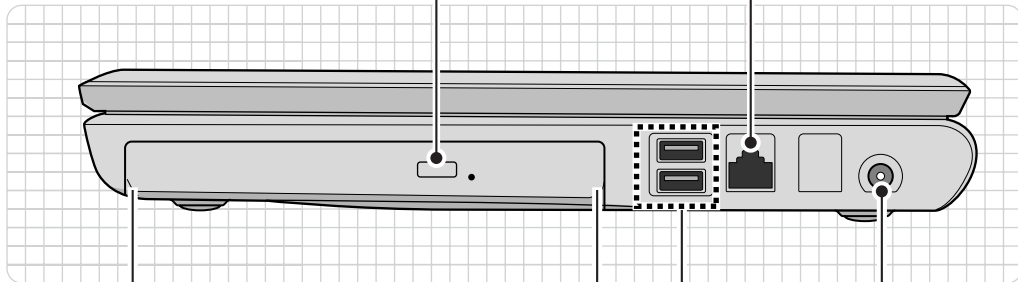
パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000280」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体左側面」

パソコン本体右側面

CD/DVD 取り出しボタン（⏏）
CD や DVD をセットしたり取り出したりします。（P.46）

ラン
LAN コネクタ（品）
LAN ケーブルを接続します。

スーパーマルチドライブ
CD や DVD をセットします。（P.46）

ユーエスビー
USB コネクタ（•⊸）
USBマウス、プリンタなどのUSB 規格の周辺機器を接続します。

ディーシーイン
DC-IN コネクタ（⎓）
添付の AC アダプタを接続します。（P.18）

パソコン本体側面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

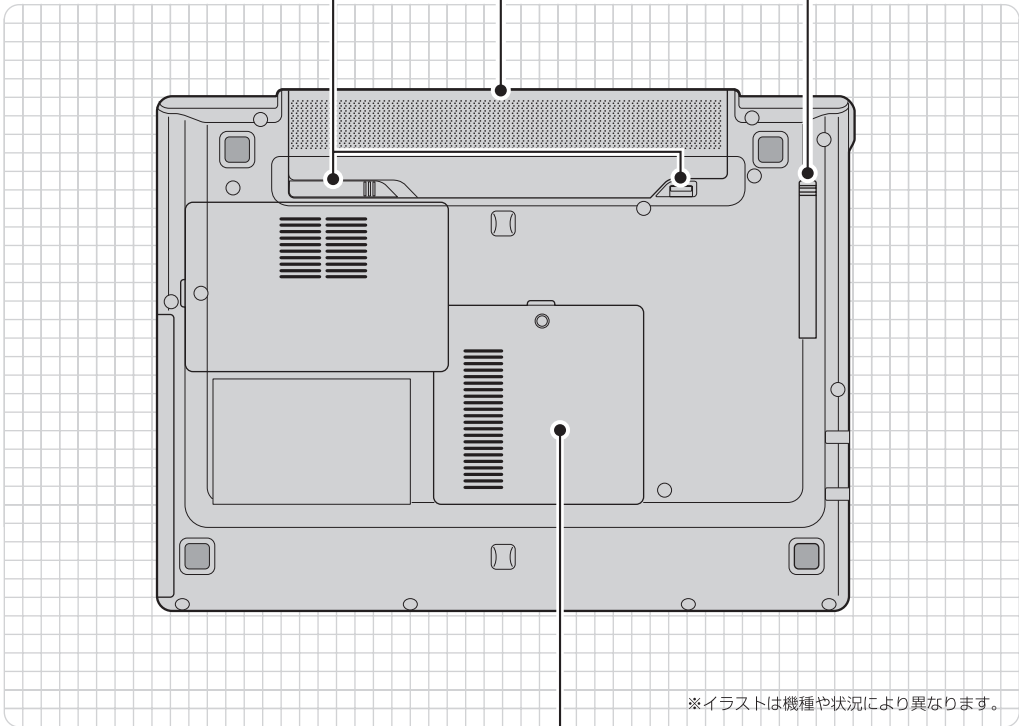
参照

『画面で見るマニュアル』»「000280」で検索→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」→「パソコン本体右側面」

パソコン本体下面

内蔵バッテリパックロック
内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。（→P.32）

ダストキャッチャー
空冷用通風路に蓄積するほこりを取り除きやすくします。（→P.88）

内蔵バッテリパック
内蔵バッテリパックが装着されています。（→P.32）

※イラストは機種や状況により異なります。

メモリ（拡張 RAM（ラム） モジュール）スロット
このパソコンのメモリが取り付けられています。
（→P.80）

パソコン本体下面の各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照
『画面で見るマニュアル』»「000250」で検索
→「各部の名称と働き：パソコン本体下面」

キーボード

半角／全角キー
キーを押すごとに、半角入力／全角入力を切り替えます。全角入力すると、日本語を入力できます。

Esc キー
現在の作業を取り消します。

ファンクションキー
ソフトウェアごとにいろいろな機能が割り当てられています。青い刻印の機能は、Fn キーを押しながらそのキーを押して使います。

Fn キー
Fn キーを押しながら青い刻印のあるキーを押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用することができます。

Shift キー
Shiftキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている記号を入力できます。

Caps Lock キー
Shift キーを押しながら Caps Lock キーを押して、英大文字入力／小文字入力を切り替えます。

Back Space キー
カーソルの左側にある 1 文字を削除します。

Delete キー
カーソルの右側にある 1 文字を削除します。

Num Lk キー
Num Lk キーを押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
（P.15）
テンキーモードでは、イラストの「テンキーになるキー」部分がテンキー（数字を入力しやすい配列のキー）として使えるようになります。テンキーモードで入力できる文字は、キーの前面に刻印されています。

カーソルキー
カーソルを上下左右に移動します。

Enter キー
入力した文字を確定したり、改行します。

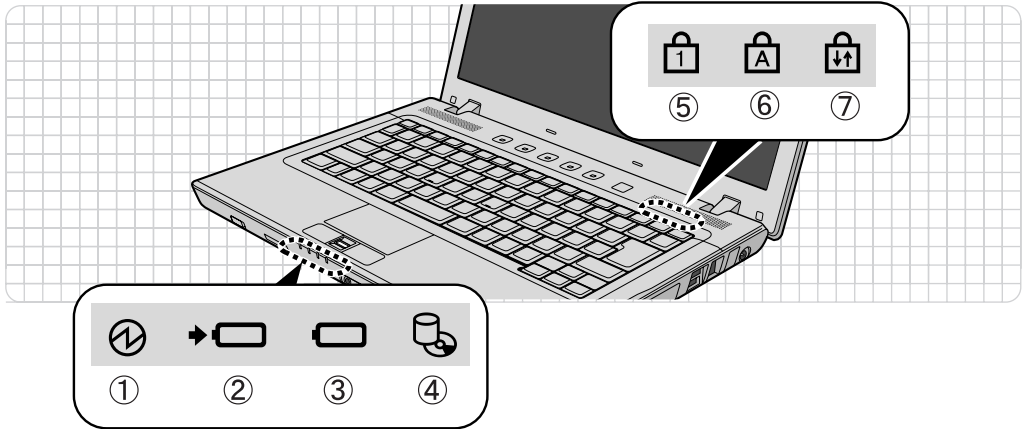
その他のキーや詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000220」で検索
→「各部の名称と働き：キーボード」

画面で見るマニュアル ｜ 添付の冊子マニュアル ▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

各部の名称と働き

状態表示 LED

① **電源ランプ（ ）**
パソコンの電源が入っているときに点灯します。

② **バッテリ充電ランプ（ ）**
パソコンにAC アダプタが接続されている場合に、バッテリの充電状態を表示します。
（→P.30）

③ **バッテリ残量ランプ（ ）**
バッテリの残量を表示します。（→P.30）

④ **ディスクアクセスランプ（ ）**
内蔵ハードディスクやCD/DVD にアクセスしているときに点灯します。

⑤ **Num Lk［ナムロック］ランプ（ ）**
・Num Lk キーを押すと、テンキーモードになります。もう一度押すと解除されます。
・テンキーモードでは、イラストの「テンキーになるキー」部分がテンキー（数字を入力しやすい配列のキー）として使えるようになります。
・テンキーモードで入力できる文字は、キーの前面に刻印されています。
【Num Lk】キー（→P.14）

⑥ **Caps Lock[キャプスロック] ランプ( )**
英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。
【Caps Lock】キー（→P.14）

⑦ **Scroll Lock[スクロールロック] ランプ（ ）**
Fnキーを押しながらScr Lkキーを押したときに点灯します。点灯中の動作は、ソフトウェアによって異なります。

状態表示LEDの各部の名称と働きについて、詳しい説明は次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「000230」で検索
→「各部の名称と働き：状態表示 LED」

第2章

パソコンの取り扱い

最初に確認していただきたいことと、使用上の注意事項などを説明しています。

1 電源を入れる／切る 18
2 バッテリで使う 29
3 フラットポイントを使う 35
4 音量を調節する 40
5 液晶ディスプレイの明るさを調節する 41
6 CD/DVD を使う 42
7 メモリーカードを使う 51
8 指紋認証を使う 56
9 LAN （有線 LAN） 機能を使う 66
10 無線 LAN 機能を使う 68
無線 LAN 搭載機種のみ
11 Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使う 70
12 Web カメラを使う 71

2

パソコンの取り扱い

電源を入れる／切る

電源の入れ方と切り方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。

ACアダプタを接続する

⚠警告

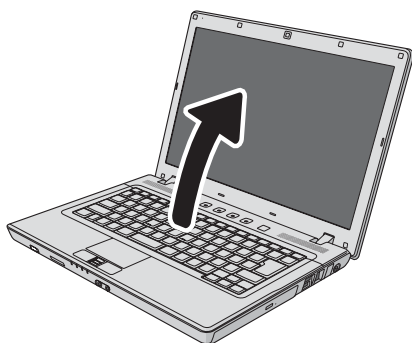
・落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。
雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

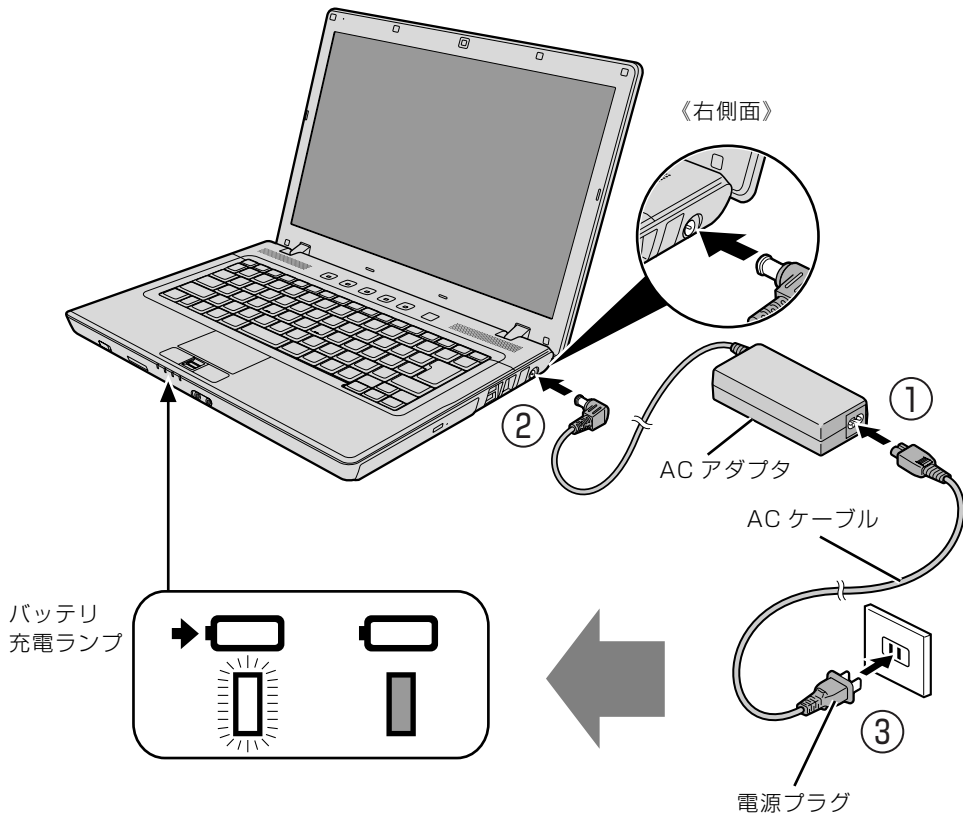
・AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

Point AC アダプタが熱くても故障ではありません

パソコンの使用中は、AC アダプタが熱くなることがありますが、故障ではありません。

1 液晶ディスプレイを開きます。

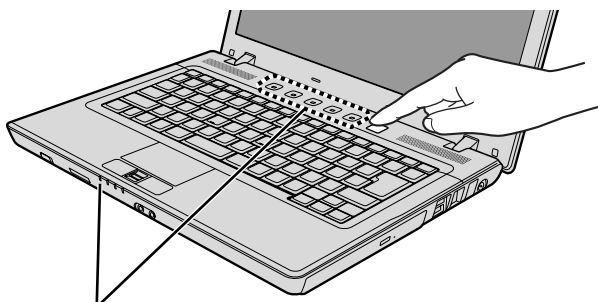
パソコン本体と液晶ディスプレイ上部の中央部分の両方に手を添えて開けてください。

2 AC アダプタを接続します。

① AC アダプタに AC ケーブルを接続します。
② パソコン本体の DC-IN［ディーシーイン］コネクタに接続します。
③ 電源プラグをコンセントに接続します。
AC アダプタは差し込み口の形状をよく確認して、奥までしっかりと差し込んでください。正しく接続すると、状態表示 LED［エルイーディー］のバッテリ充電ランプ（➔▭）が点灯します。

電源を入れる

ここでは Windows を起動する方法を説明しています。

重要 電源を入れるときの注意

- 電源を入れてからこのパソコンが起動するまでは、むやみにキーボードやフラットポイントに触れないでください。正常に起動できなくなる場合があります。
- パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリ切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- 電源ボタンを、4 秒以上押し続けるとパソコンの電源が切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。

1 電源ボタン（⏻）を押します。

ワンタッチボタンと電源ランプが点灯し、画面に文字などが表示されます。ワンタッチボタンは、しばらくすると消灯します。

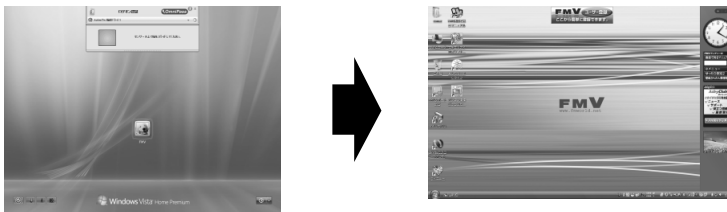
2 このような画面が表示されたことを確認します

■Windows のログオンパスワードを設定していない場合

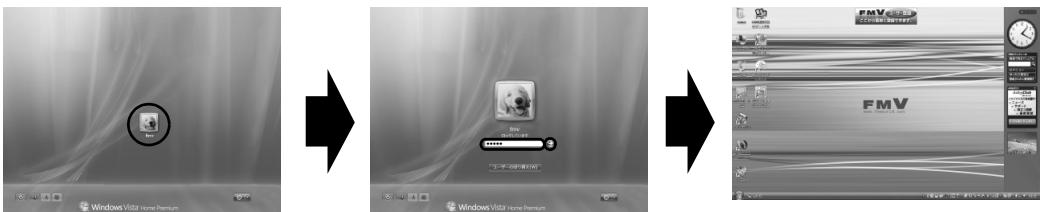
（この画面は、機種により異なります）

■Windows のログオンパスワードを設定している場合

・Windows のログオンに指紋認証を設定している場合

指紋センサーに指をスライドさせます。

（これ以降の画面は、機種や状況により異なります）

・Windows のログオンに指紋認証を設定していない場合

お使いのユーザー名をクリックします。Windows のログオンパスワードを入力し、➔をクリックします。

（これ以降の画面は、機種や状況により異なります）

Windowsのパスワードについては、Windows のヘルプを表示し、「パスワード」で検索して「コンピュータをパスワードで保護する」をご覧ください。

Point Windows が起動しない場合

次の点を確認してください。

・AC アダプタを接続している場合
　AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。
　「AC アダプタを接続する」（→P.18）

・バッテリで使う場合
　バッテリの残量が充分にあるかを確認し、残量が少ない場合は AC アダプタを接続してください。バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。

以上の点を確認しても Windows が起動しない場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

電源を切る

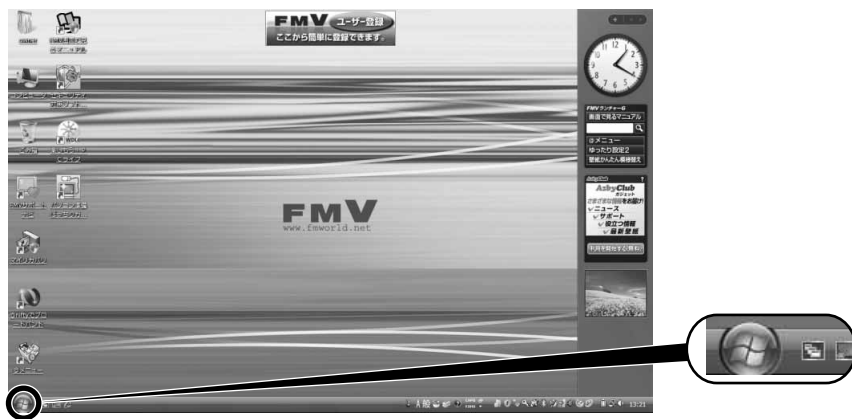
ここでは Windows を終了する方法を説明しています。
必ず、次の手順で Windows の終了処理を行ってください。Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。
パソコンを使わないときは、Windows を終了せずに「待機状態（スリープ）」にしておくこともできます。スリープにする方法については、「パソコンを待機状態にする／復帰させる」（→P.26）をご覧ください。

1 作業中のデータを保存して、ソフトウェアを終了します。

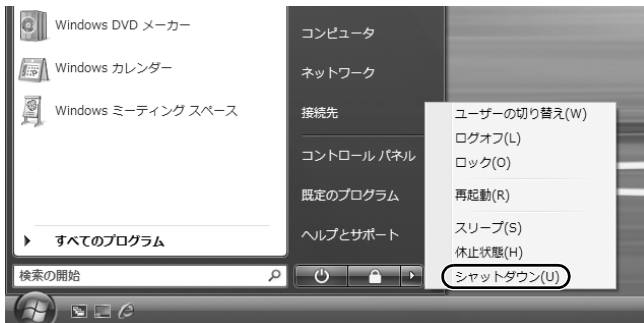
ソフトウェアで作業をしたまま、電源を切る操作をすると作業中のデータが消えたり、データ保存を確認するメッセージが表示されることがあります。誤操作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

2 CD や DVD をセットしている場合は、CD/DVD 取り出しボタンを押して取り出します。

パソコンの電源を切ると、CD や DVD は取り出せません。

3 （スタート）をクリックします。

（これ以降の画面は、機種や状況により異なります）

4 ▶をクリックします。

5 「シャットダウン」をクリックします。

しばらくすると Windows が終了し、パソコンの電源が自動的に切れます。

Point パソコンが動かなくなり操作できない場合

フラットポイントやキーボードが操作できないなど、電源を切る操作ができないときは、次のマニュアルをご覧ください。

『トラブル解決ガイド』
→「Q&A 集」→「パソコンがおかしいときの Q&A 集」→「起動／終了」

Point 電源を切らずに液晶ディスプレイを閉じた場合

このパソコンは、電源を切らずに液晶ディスプレイを閉じるとスリープの状態になります。スリープの状態にしておくと、次に液晶ディスプレイを開けたときに、閉じる前の状態に復帰します。そのため、パソコンをすぐに使い始めることができます。
スリープについて詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **省電力機能について**

『画面で見るマニュアル』»「000410」で検索
→「省電力機能を使う」

パソコンを待機状態にする／復帰させる

パソコンを使わないときは、電源を切らずに待機状態にしておくことができます。待機状態にしておくとパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。
待機状態にはスリープと休止状態があります。ここでは、パソコンをスリープにする方法と、スリープから復帰（レジューム）する方法について説明します。

Point 次の場合はパソコンの電源を切ってください

・パソコンを長期間使わないとき
・パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき
上記のような場合はいったんパソコンの電源を切り、再度電源を入れ直してください。
電源の切り方については、「電源を切る」（→P.23）をご覧ください。

スリープとは

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。

パソコンをスリープする

1 （スタート）→ をクリックします。

パソコンがスリープの状態になります。スリープ中は、電源ランプが点滅します。

スリープから復帰する

1 電源ボタン（⏻）を押します。

パソコンがスリープから復帰（レジューム）します。電源ボタンは 4 秒以上押し続けないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。

Point 復帰するときは

スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。
スリープや休止状態については、次のマニュアルもご覧ください。

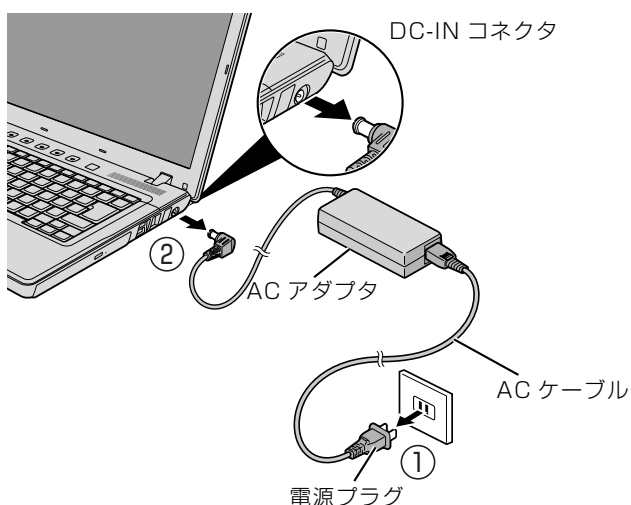
参照 省電力機能について

『画面で見るマニュアル』»「000410」で検索
→「省電力機能を使う」

AC アダプタを取り外す

パソコンを持ち運ぶときや、周辺機器の取り付け／取り外しをするとき、パソコンを長時間使わないときは、必ず AC アダプタを取り外してください。

1 AC アダプタを取り外します。

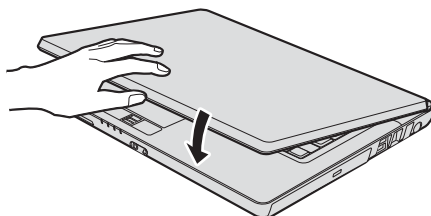
① AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜きます。
② AC アダプタを DC-IN コネクタから取り外します。

重要 パソコン使用中に AC アダプタを取り外す場合

バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。

重要 電源を切っても電力を消費します

パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費します。そのため、AC アダプタを取り外した状態ではバッテリの残量が少しずつ減っていきます。
長時間 AC アダプタを取り外していた場合は、お使いになる前に AC アダプタを接続してから電源を入れてください。
バッテリの残量を減らさないためには、AC アダプタを接続しておいてください。長期間パソコンを使用しない場合には内蔵バッテリを外してください。

2 液晶ディスプレイを閉じます。

液晶ディスプレイは、静かに閉じてください。

重要 液晶ディスプレイを閉じるときの注意

・液晶ディスプレイは、静かに閉じてください。液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。
・液晶ディスプレイを閉じるときは、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

Point AC アダプタについて

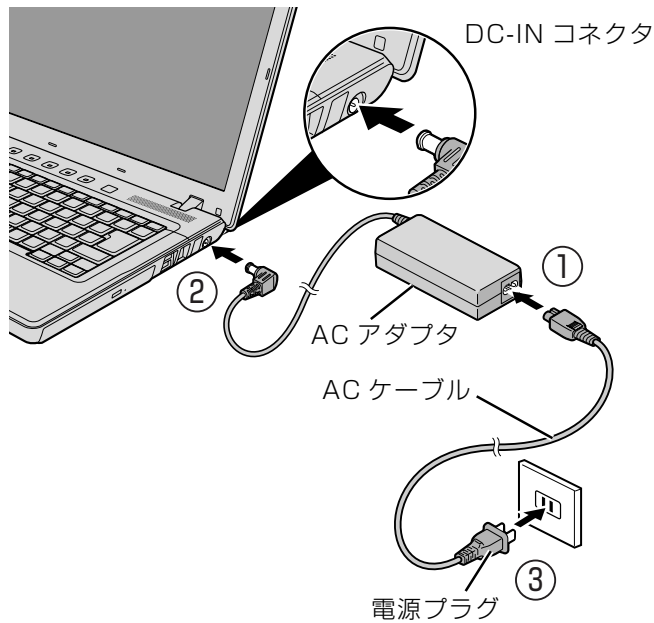
パソコン本体から取り外した AC アダプタは、AC アダプタ本体や AC ケーブルが、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。
保管の際には、AC アダプタに AC ケーブルを巻き付けたりしないでください。
使用時に AC アダプタ本体や AC ケーブルの変形や割れ、傷があった場合は、使用しないでください。

バッテリで使う

このパソコンは、AC アダプタを使わずにバッテリを使って動作させることができます。
ここでは、バッテリの充電方法、バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプの状態を確認する方法、バッテリの交換方法について説明しています。

バッテリを充電する

1 パソコンに AC アダプタを接続します。

充電が始まり、バッテリ充電ランプが点灯します。

2 バッテリ充電ランプがグリーン点灯に変わったことを確認し、AC アダプタを取り外します。

バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプの確認をする

バッテリの充電の確認は、バッテリ充電ランプ／バッテリ残量ランプで行います。
バッテリ充電ランプ（ ）／バッテリ残量ランプ（ ）は、次のように表示されます。

バッテリ充電ランプ （ ）

状態	充電ランプの表示
AC アダプタを接続し、充電中	オレンジ点灯（ ）
AC アダプタを接続し、充電終了（満充電時）	グリーン点灯（ ）
AC アダプタ接続（バッテリ未装着）時	
AC アダプタ未接続（充電していない）時	消灯

重要 バッテリ充電ランプがオレンジ点滅した場合

バッテリ充電ランプがオレンジ点滅状態になるのは、次の場合です。
・内蔵バッテリパックが熱を持って温度が高くなった場合
・冷やされて温度が低くなったときに、バッテリの保護機能が働いて充電を停止している場合
内蔵バッテリパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。

バッテリ残量ランプ （ ）

	動作時 スリープ時、休止状態時、 電源OFF時（充電中）	スリープ時 （非充電中 [注3]）	休止状態／ 電源OFF時 [注2] （非充電中 [注3]）
バッテリ残量　100～50%	グリーン点灯（ ）	ゆっくりグリーン点滅 （ ）	消灯
バッテリ残量　49～13%	オレンジ点灯（ ）	ゆっくりオレンジ点滅 （ ）	
バッテリ残量　12%以下 （LOW［ロウ］バッテリ状態）	レッド点灯	ゆっくりレッド点滅 （ ）	
バッテリパック未装着時	消灯		
バッテリ異常時［注 1］	レッド点滅		

注 1：バッテリが正常に取り付けられていない場合、または故障している場合
注 2：電源 OFF 時にバッテリを取り付けると、バッテリ残量計測のために数秒間点滅した後、消灯します。
注 3：または AC アダプタ未接続時

重要 バッテリ残量ランプがレッド点滅した場合

・早い間隔でレッド点滅：バッテリが正しく充電できていません。パソコン本体の電源を切ってからバッテリを取り付け直してください。
・レッド点灯／点滅　　：バッテリ残量が少なくなっています（LOW バッテリ状態）。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリを充電してください。

バッテリについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照 バッテリについて

『画面で見るマニュアル』»「000590」で検索
→「バッテリで使う」

内蔵バッテリパックを交換する

バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。
稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。
使用できるバッテリについては、次のマニュアルをご覧ください。
このパソコンには、次のバッテリパックが取り付けられます。

- パソコン本体色がピンクパープルの場合
  品名：内蔵バッテリパック
  型名：FMVNBP146
- パソコン本体色が白の場合
  品名：内蔵バッテリパック
  型名：FMVNBP172

詳しくは、ご購入元にお問い合わせください。

⚠警告

・バッテリパックの交換を行う場合は、パソコンの電源を必ず切り AC アダプタを取り外してください。また、パソコンやバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

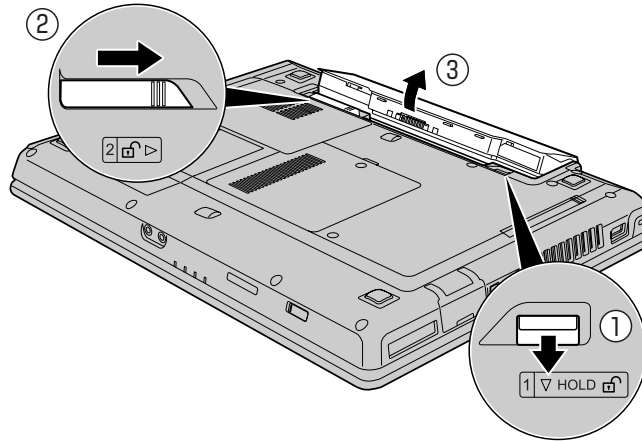
1 パソコンの電源を切り、AC アダプタを取り外します。

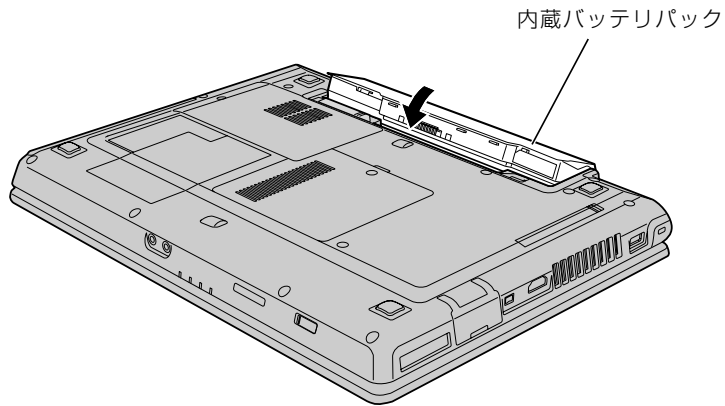
電源の切り方は、「電源を切る」（→P.23）をご覧ください。

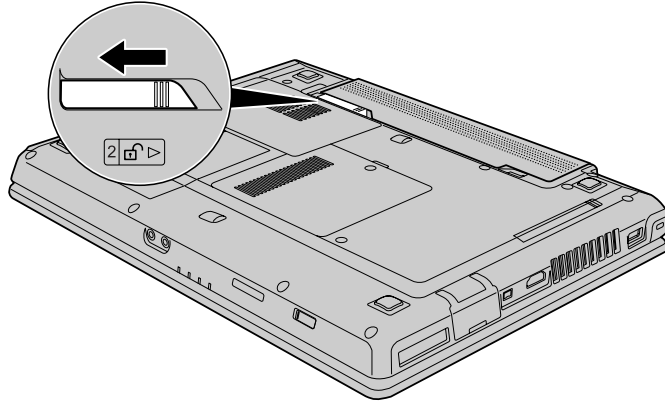
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 内蔵バッテリパックを取り外します。

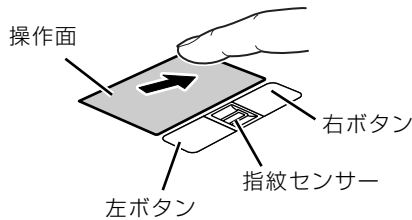
①内蔵バッテリパックロック 1 を矢印の方向に押しながら、②内蔵バッテリパックロック 2 を矢印の方向にスライドさせると、赤いシールが現れます。③内蔵バッテリパックロック 1 を矢印の方向に押したまま、赤いシールの貼られているくぼみに指をかけて、内蔵バッテリパックを斜めに持ち上げて取り外します。

4 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを斜め上から差し込み、カチッと音がするまでしっかりはめこみます。

5 内蔵バッテリパックロック 2 をロックします。

内蔵バッテリパックロック 2 を矢印の方向にスライドさせます。

フラットポイントを使う

フラットポイントについて

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、操作面とその手前にある 2 つのボタンで構成されています。
この操作面を指先で上下左右になぞることにより、画面上のマウスポインタを移動させます。
左右のボタンは、それぞれマウスの左右のボタンに相当し、その機能はソフトウェアにより異なります。

また、中央にある指紋センサーを使って、画面をスクロールすることができます。

（イラストは機種や状況により異なります）

Point フラットポイントをお使いになるときの注意

・フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインタが正常に動作しないことがあります。電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーを使った画面のスクロールができない場合があります。

Point USB［ユーエスビー］マウスを使用することもできます

マウスの接続方法については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 マウスの接続方法について

『画面で見るマニュアル』»「000680」で検索
→「マウスを接続する」

参照 マウスの使い方について

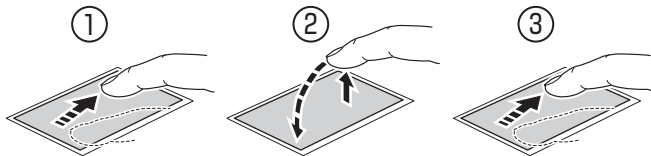
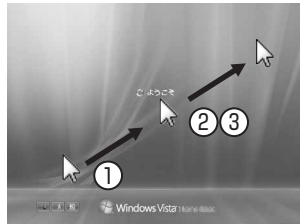
『画面で見るマニュアル』»「000780」で検索
→「マウスを使う」

フラットポイントの使い方

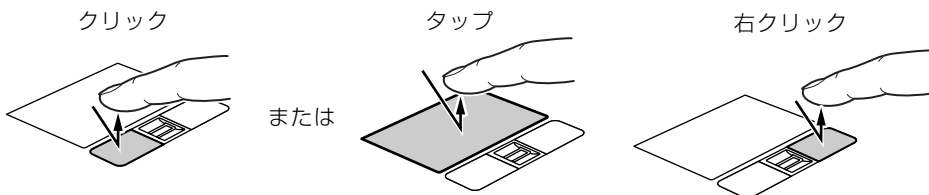
マウスポインタ（ ）を移動させる

操作面を指先で上下左右になぞることで、画面上のマウスポインタ（ ）を移動させます。

Point 指が操作面の端まできたら

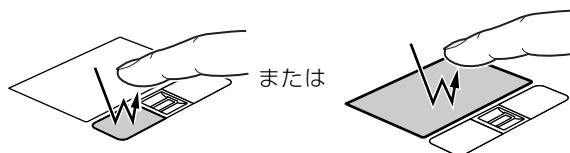
いったん操作面から指を離して、もう一度別の位置からなぞってください。指を離してもマウスポインタは動きません。

指を離している間はマウスポインタは動きません。

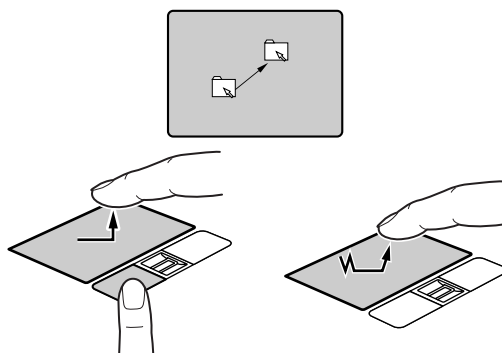
クリック（タップ）

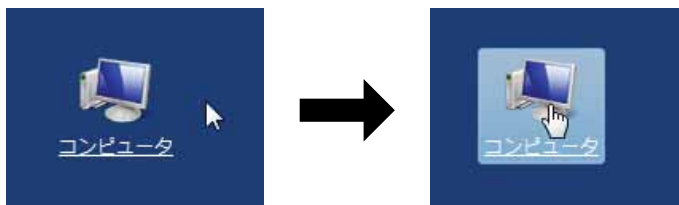
左ボタンをカチッと1回押して、すぐに離すか、操作面を1回タップ（軽くたたく）ことです。
また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

Point うまくタップできない場合

なるべく操作面の中央部分をたたくようにしてください。また、操作面をたたくときや離すときに、 の位置がずれないように、気をつけてください。

ダブルクリック

左ボタンをカチカチッと素早く2回押して、すぐに離すか、操作面を2回連続してタップすることです。

ドラッグ

左ボタンを押したまま操作面をなぞり、希望の位置で指を離します。
または、操作面を素早く2回タップし、2回目のタップのときに指を操作面上から離さずになぞり、希望の位置で指を離します。

ポイント

マウスポインタをアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されます。

（画面は機種や状況により異なります）

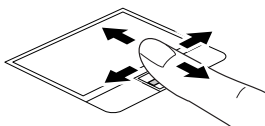
画面のスクロール

指紋センサー上で指先をスライドすると、画面の表示をスクロールさせる（動かす）ことができます。

1 スクロールしたい領域（ウィンドウの中）をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

2 指紋センサー上で指先をスライドします。

ウィンドウの中の表示が指をスライドさせた方向にスクロールします。

続けて画面をスクロールするには、いったん指を離してから繰り返し指をスライドします。
画面を大きくスクロールさせる場合には、指をスライドした後、センサーの上にしばらく止めておくとスクロールが自動的に繰り返されます。

Point 指紋センサーで画面をスクロールするときのご注意

お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーを使った画面のスクロールができない場合があります。

フラットポイントについては、次のマニュアルもご覧ください。

参照 **フラットポイントについて**

『画面で見るマニュアル』»「000640」で検索
→「フラットポイントを使う」

Point ジェスチャー機能について

このパソコンでは、設定を変更することで、ジェスチャー機能を使うことができます。
詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

参照 **ジェスチャー機能について**

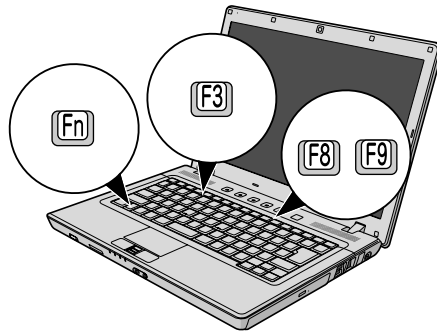
『画面で見るマニュアル』»「000640」で検索
→「フラットポイントを使う」→「フラットポイントの使い方」

音量を調節する

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボードなどで調節できます。

重要 スピーカーが故障する原因となる場合があります

音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。

1 キーボードで、適切な音量に調節します。

（イラストは状況により異なります）

■音量を小さくする場合

【Fn】を押しながら、【F8】を押します。

■音量を大きくする場合

【Fn】を押しながら、【F9】を押します。
調節中は画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。

■音を消す場合

【Fn】を押しながら、【F3】を押します。
「Mute」と表示され、画面右下の通知領域に が表示されます。
もう一度【Fn】を押しながら【F3】を押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。

音量小 ←――→ 音量大

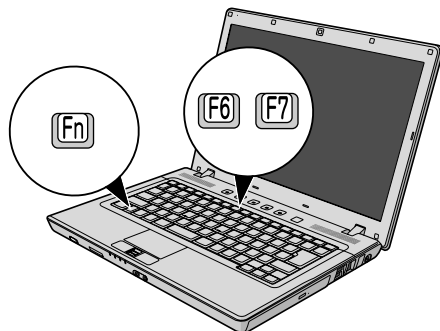
画面右下の通知領域にある（ ）でも調節できます。その他、音量調節については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 音量を調節する

『画面で見るマニュアル』»「000190」で検索
→「音量を調節する」

液晶ディスプレイの明るさを調節する

キーボードで画面の明るさを、8 段階に変更できます。

1 明るさを設定します。

（イラストは状況により異なります）

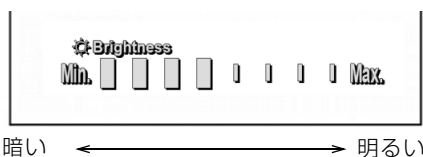
■明るくする場合

Fn を押しながら F7 を押す

■暗くする場合

Fn を押しながら F6 を押す

画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

暗い ←→ 明るい

明るさの設定について Column

・キーボードで画面の明るさを設定しても、パソコンを再起動したり、スリープや休止状態から復帰したり、ACアダプタの接続や取り外しを行うと、変更前の明るさに戻ります。
・パソコンを再起動したり、スリープから復帰したり、AC アダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間を置いてから変更してください。
・ご購入時は、ACアダプタを接続している場合は明るく、バッテリで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。
・明るさの設定は、ACアダプタを接続している場合と、バッテリで使っている場合とで別々に変更できます。

明るさの設定については、次のマニュアルもご覧ください。

参照 液晶ディスプレイの明るさの設定について

『画面で見るマニュアル』»「000180」で検索
→「液晶ディスプレイの明るさを変更する」

CD/DVD を使う

このパソコンでできること

このパソコンでは、CD や DVD、の読み出しや書き込みをしたり、音楽 CD や DVD-VIDEO を再生することができます。

詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

参照 CD や DVD で楽しむ

『画面で見るマニュアル』
→「カテゴリから探す」→「CD/DVD」

このパソコンで使えるディスク／使えないディスク

使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。

	種別	読みかたの例
CD	**CD-ROM**	シーディーロム
	CD-DA（音楽 CD）	シーディーディーエー
	フォト CD	フォトシーディー
	ビデオ CD	ビデオシーディー
	CD-R	シーディーアール
	CD-RW	シーディーアールダブル シーディーリライタブル
DVD	**DVD-ROM**	ディーブイディーロム
	DVD-VIDEO	ディーブイディービデオ
	DVD+R	ディーブイディープラスアール
	DVD+RW	ディーブイディープラスアールダブル
	DVD+R DL	ディーブイディープラスアールデュアルレイヤー
	DVD-R	ディーブイディーアール ディーブイディーマイナスアール
	DVD-RW	ディーブイディーアールダブル ディーブイディーマイナスアールダブル
	DVD-R DL	ディーブイディーアールダブルレイヤー ディーブイディーマイナスアールデュアルレイヤー
	DVD-RAM［注］	ディーブイディーラム

注：ディスクはお使いになる前に、フォーマットが必要です。

参照 ディスクをフォーマットする

『画面で見るマニュアル』»「000060」で検索
→「DVD-RAM をフォーマットする」

推奨ディスク　2008 年 10 月現在

次のディスクの使用を推奨します。

下記以外のディスクをお使いの場合は、書き込み／書き換え速度が低下することがあります。また、下記以外の DVD-RW または DVD+RW をお使いの場合は、書き込みが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	三菱化学メディア	SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTYN、DR-47WTY10SA
DVD-R DL	三菱化学メディア	DHR85H1
DVD-RW	日本ビクター	VD-W47H
	三菱化学メディア	DHW47R1
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47M（4.7GB、カートリッジ無） LM-HB47MA（4.7GB、カートリッジ有、取り出し可） LM-HB94M（9.4GB、カートリッジ有、取り出し可）
	日立マクセル	DRM47PWC.S1P 5S A（4.7GB、カートリッジ無）
DVD+R	三菱化学メディア	DTR47J10
	太陽誘電 (That's)	DR+47WTYN
DVD+R DL	三菱化学メディア	DTR85H1
DVD+RW	三菱化学メディア	DTW47U1

使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）
  このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。
  円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。
  異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
  DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ～ 1.5mm と規定しています。
  記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
  規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 傷またはヒビの入ったディスク
  傷またはヒビの入ったディスクをお使いになるとドライブ内部で破損する場合があります。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM（Type1）
  DVD-RAM は、カートリッジ無しタイプ、またはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出して使わないでください。

参照 **このパソコンで使えるディスク／使えないディスクについて**

『画面で見るマニュアル』»「000050」で検索
→「使えるディスクと対応ソフトウェア」

2
パソコンの取り扱い

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ここでは、ディスクをパソコンにセット／取り出しをする方法について説明しています。

ディスクをセットする

ディスクは、パソコンの電源が入っている状態のときにセットできます。

⚠注意

・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

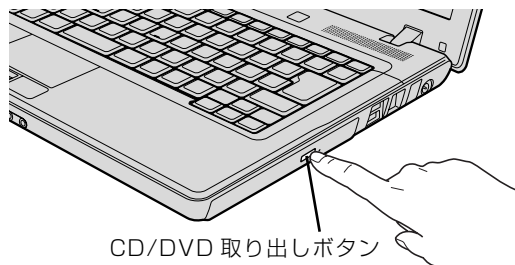
重要 ディスクをセットするときの注意

CD や DVD に頻繁にアクセスしたり、DVD-VIDEO を再生したり、CD や DVD に書き込み、書き換えをしたりする場合は、パソコン本体に AC アダプタを取り付けることをお勧めします。

重要 ディスク使用時の風切音について

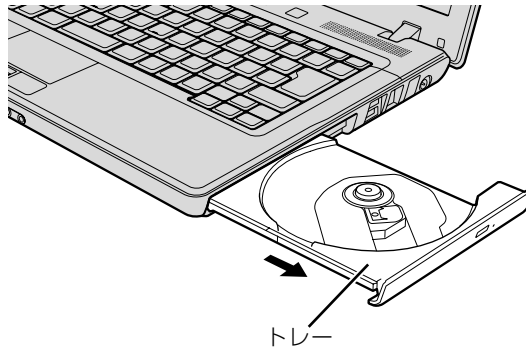
ディスクはデータの読み出しなどの際に高速回転するため、使用時には振動や風切音がすることがあります。

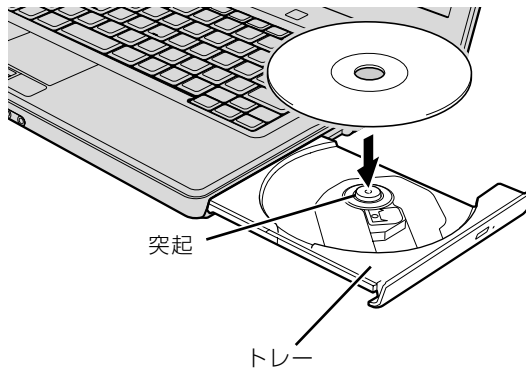
1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

状態表示 LED のが点滅中に CD/DVD 取り出しボタンを押してもかまいません。

CD/DVD 取り出しボタン

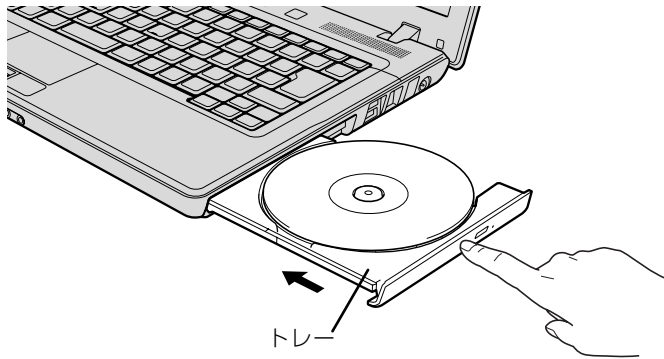
（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

トレーが少し飛び出します。

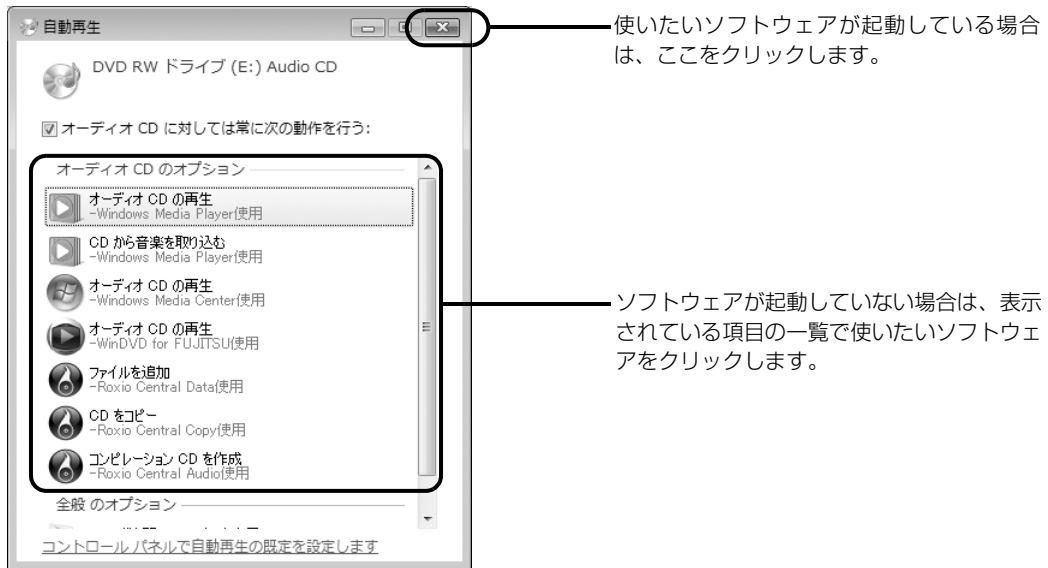
2 トレーを静かに引き出します。

3 トレーを支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を上（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、パチッと音がするまでしっかりとセットします。

重要 ディスクはパチッと音がするまでしっかりとセットしてください

ディスクの穴を突起にきちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、読み取れなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部およびディスクを破損する原因となります。

4 トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてから、パソコンで使えるようになるまで、約 10 秒かかります。

5 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、次のどちらかの操作を行います。

・すでに使いたいソフトウェアが起動している場合は、 をクリックします。
・使いたいソフトウェアが起動していない場合は、表示されている項目の一覧で使いたいソフトウェアをクリックします。

（画面は状況により異なります）

ディスクを取り出す

ディスクは、パソコンの電源が入っている状態のときに取り出すことができます。

⚠注意

・ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

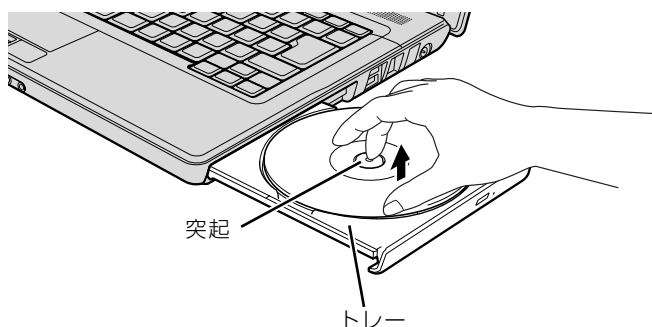
1 ディスクを利用しているソフトウェアがあれば終了します。

2 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

状態表示 LED の が点滅中でも、CD/DVD 取り出しボタンを押してもかまいません。
トレーが少し飛び出します。

3 トレーを静かに引き出します。

4 トレーを支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。

（イラストは機種や状況により異なります）

5 トレーを静かに押し込みます。

ディスクが取り出せなくなった場合は、次のマニュアルをご覧ください。

参照 このパソコンで使えるディスク／使えないディスクについて

『画面で見るマニュアル』»「000052」で検索
→「ディスクをパソコンにセットする／取り出す」→「ディスクが取り出せなくなったら」

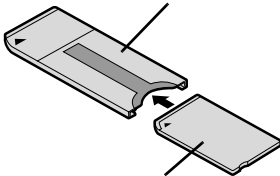
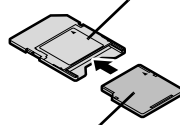
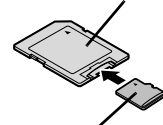
メモリーカードを使う

ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードの差し込み方法、および取り出し方法について説明しています。
SD メモリーカードやメモリースティックを総称して、メモリーカードと呼んでいます。

メモリーカードをお使いになるうえでのご注意

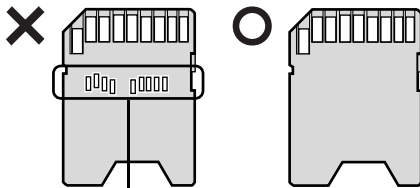
メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- **メモリースティックDuo、メモリースティックPRO DuoまたはminiSDカードやmicroSDカードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。**

  必ずアダプタに差し込んでからお使いください。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
  また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

- **メモリースティック Duo アダプタは、塗装部分が剥がれた状態では使用しないでください。**

  ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。
  また、剥がれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプタが取り出せなくなる場合があります。

- **端子が露出している miniSD カードアダプタは使用できません。**

  ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。
  miniSD カードのアダプタは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。
ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードは次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

MEMORY STICK〔注 1〕	SD SDHC〔注 2〕
・メモリースティック ・メモリースティック（メモリーセレクト機能付） ・メモリースティック Duo（デュオ） ・メモリースティック PRO（プロ） ・メモリースティック PRO Duo（プロデュオ）	・SD メモリーカード ・miniSD（ミニエスディー）カード ・microSD（マイクロエスディー）カード ・SDHC（エスディーエイチシー）カード

注 1：マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
注 2：マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
SDIO カードには対応していません。
2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC カードをお使いください。
著作権保護機能（CPRM［シーピーアールエム］）に対応しています。

▶このマニュアルの巻頭でご案内しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す

⚠注意

・メモリーカードを差し込む場合または取り出す場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

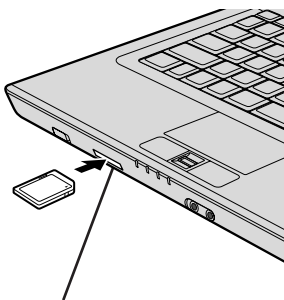
重要 メモリーカードをお使いになるときの注意

・メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
・メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

Point メモリーカードを差し込む手順を動画で見ることができます

サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で、メモリーカードを差し込む手順の動画がご覧になれます。

メモリーカードを差し込む

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

※ 製品名のある面を上側にして、まっすぐに差し込みます。
※ SDメモリーカード、メモリースティックを同時に使用することはできません。

「マイフォト」について

メモリーカードをパソコンのダイレクト・メモリースロットに差し込むと、画像表示ソフトウェア「マイフォト」が起動する場合があります。
「マイフォト」を自動起動しないようにするには、「マイフォト」のメニュー画面の「設定」ボタンをクリックして、「メモリーカード挿入時にこのソフトを自動起動する」の「しない」の ◯ を ◉ にして、「適用」ボタンをクリックし、マイフォトを終了します。

(画面は機種や状況により異なります)

マイフォトについて、詳しくは次のマニュアルをご覧ください。

参照

『画面で見るマニュアル』»「210750」で検索
→「マイフォト」

メモリーカードを取り出す

1 画面右下の通知領域にある (ハードウェアの安全な取り外し)をクリックします。

2 「nnn を安全に取り外します」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

4 メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。
飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

メモリーカードについて詳しくは次のマニュアルもご覧ください。

参照 メモリーカードについて

『画面で見るマニュアル』»「000700」で検索
→「メモリーカードを使う」

指紋認証を使う

指紋認証について

指紋認証とは、指紋センサーで指の指紋を読み取って行う認証のことです。
指紋認証を使うと、ユーザー名やパスワードの入力を省略し、指紋センサーに指をスライドさせるだけで次のようなことができます。

- Windows へログオンする
- ID（ユーザー名）やパスワードを必要とするホームページへログインする
- パスワードが設定されたスクリーンセーバーを解除する
- ユーザーの切り替えをする

ここでは、指紋認証を使えるようにするための初期設定について説明しています。

Point　指のスライドのさせ方を動画で見ることができます

サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で、指のスライドのさせ方がご覧になれます。

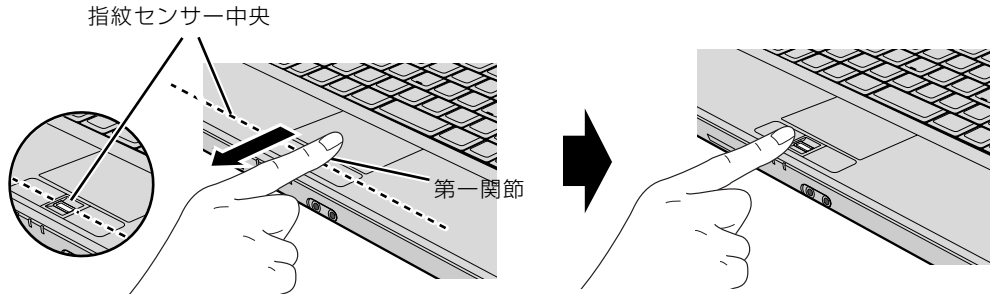
指のスライドのさせ方

指紋の登録や認証を行う場合は、次のように指をスライドさせてください。認証の失敗を減らすことができます。

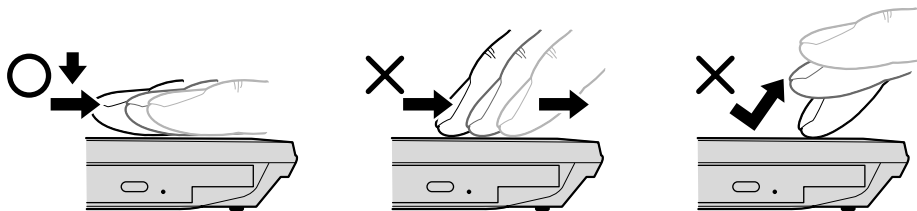
1 操作する指の第一関節が、指紋センサーの中央部に当たるように準備します。

第一関節より先の部分が読み取り範囲となります。

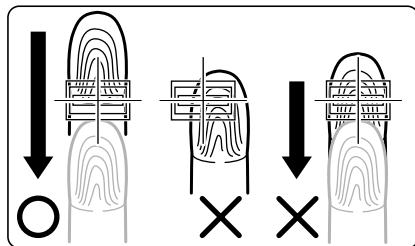
2 指をまっすぐ伸ばして第一関節を指紋センサーに軽く当てます。

手全体を手前に引くようにして、センサー部が完全に見えるまで水平にスライドさせます。

（イラストは機種や状況により異なります）

重要 指をスライドさせるときの注意

指紋センサーに指のはら（指紋の中心部）が接触していなかったり、指を引っかけるようにスライドさせると指紋の読み取りがうまくいかない場合があります。
必ず、指のはら（指紋の中心部）が指紋センサーに接触するようにスライドさせてください。

（イラストは機種や状況により異なります）

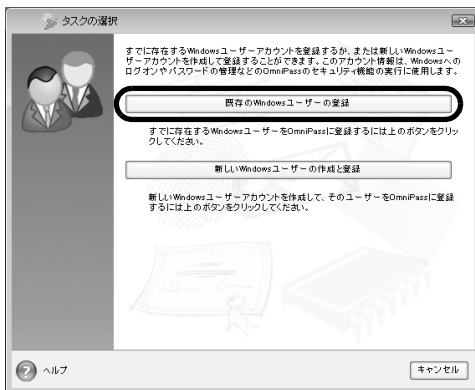
重要 指紋の読み取りがうまくいかない場合

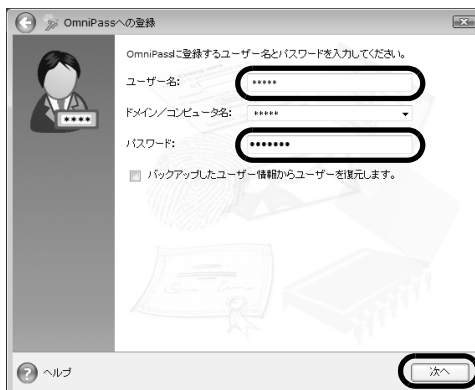
次の点に気をつけて操作してください。
・指の第一関節より先の部分が、指紋センサー上を通過するようにする
・指紋の渦の中心が、指紋センサーの中心を通過するようにする
・指紋の入力画面が表示されていることを確認し、入力が可能な状態になってから、操作する
・１秒程度で通過するくらいの速さで、途中で止めずに指を動かす

なお、親指など、指紋の渦の中心を合わせにくい指は、うまく認識できないことがあります。その際は、中心を通過させやすい指を登録してください。

指紋を登録する

認証に必要な情報を登録します。

1 （スタート）→「すべてのプログラム」→「Softex」→「新規ユーザーの登録」の順にクリックします。

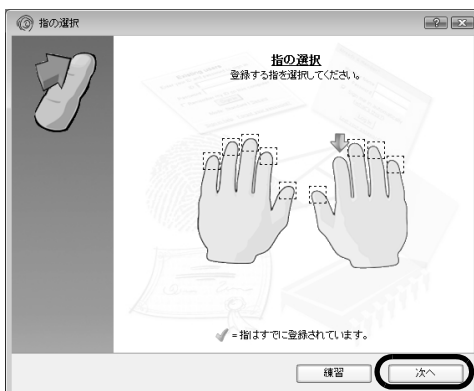
2 「既存の Windows ユーザーの登録」をクリックします。

3 ログオンするときと同じパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

「ユーザー名」が Windows にログオンするときと同じことを確認してください。Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、「パスワード」は空欄のまま「次へ」をクリックします。

重要 Windows のログオンパスワードを設定していない場合

セキュリティを強くするためにはWindowsのログオンパスワードもあわせて設定することをお勧めします。パスワードを設定しない場合は、誰でもそのユーザーで Windows にログオンし、個人の文書や画像などのデータファイルを開いたり削除したりできます。
Windows のログオンパスワードの設定方法については、次のマニュアルをご覧ください。

参照 Windows ログオンパスワードの設定について

『画面で見るマニュアル』»「202460」で検索
→「Windows のログオンパスワードを設定する」

4 認証で使用する指をイラストで選択し、「次へ」をクリックします。

Point 「練習」ボタンについて

この画面にある「練習」ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をすることができます。指紋を登録する前に指紋の読み取りを練習されることをお勧めします。
ウィンドウ左上の、または「完了」ボタンをクリックすると、指紋を登録する画面に戻ります。

5 指紋センサーに指をスライドさせ、指紋の採取と確認を行います。

画面の表示に従って指紋の読み取りを行ってください。
指紋が正常に読み取れた場合は、指紋の画像の下に表示されている数字が増加し、次の読み取り処理に進みます。読み取れなかった場合は、画面の上部にその理由が表示されます。
指紋の採取は１本の指につき最低3回行います。指紋の採取が成功した後に、確認のためにもう一度指紋センサーに指をスライドさせます。

（イラストは機種や状況により異なります）

Point 指紋は正しく登録してください

指紋の登録が正常に完了しても、指紋の読み取りが不完全なまま登録してしまうと、Windows のログオン時などの指紋認証に成功する可能性が低くなってしまいます。指紋を登録するときは、次の条件を満たすように、スライドがしやすく指紋を読み取らせやすい指で行ってください。
・できるだけ広い範囲の指紋が読み取られている
・指紋の渦が画像の中に含まれている

良い例　　悪い例

Point 指紋の読み取りがうまくいかない場合

指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（→P.56）をご覧ください。

6 「確認は成功しました」と表示されたら、「完了」をクリックします。

確認がうまくいかなかった場合には、ウィンドウ左上のをクリックし、もう一度指紋の読み取りを行ってください。

7 「少なくとも 2 本の指の登録が必要です。引き続き、2 本目の指を登録してください。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

手順4（→P.59）の操作に戻り、1指目以外の指の指紋を登録してください。指先の怪我やその他の理由で指紋を認証できなくなった場合に備え、登録時の手順では2本分の指紋を登録します。

8 2 指目の指紋を登録したら、「完了」をクリックします。

「操作が完了するまでお待ちください」というウィンドウが表示され、ユーザー登録が行われます。

9 「OmniPass は新しいユーザーの作成を完了しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

これで指紋の登録は完了です。

複数ユーザーで指紋認証を使う

複数のユーザーの指紋を登録し、簡易ユーザー切り替え機能を有効にすると、指紋を読み取らせるだけで簡単にユーザーの切り替えができます。
ここでは、新しくユーザーを作成し、指紋を登録する方法を説明しています。なお、指紋を登録する際に、Windows のログオンパスワードも同時に設定できます。
新しいユーザーを登録する場合は、コンピュータの管理者でログオンしている必要があります。

1 （スタート）→「すべてのプログラム」→「Softex」→「新規ユーザーの登録」の順にクリックします。

2 「新しい Windows ユーザーの作成と登録」をクリックします。

3 新しいユーザーを作成します。

新しく追加するユーザーの名前を「ユーザー名」に、ログオンパスワードを「パスワード」および「パスワードの確認」に入力し、アカウントの種類を選んで、「次へ」をクリックします。

ここで入力したユーザー名とパスワードで、新しいユーザーが追加されます。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。

重要 「パスワード」の設定について

パスワードを設定しない場合は、誰でもそのユーザーで Windows にログオンし、個人の文書や画像などのデータファイルを開いたり削除したりできます。セキュリティを強くするためには Windows のログオンパスワードもあわせて設定することをお勧めします。

重要 「アカウント」の種類について

・「管理者」
　パソコンの設定を変更したり、新しいソフトウェアをインストールしたりできます。
・「標準ユーザー」
　パソコンの設定の変更や、ファイルの参照、システムの重要なファイルの削除が制限されます。また、ソフトウェアのインストールや一部のソフトウェアの使用が制限されます。

4 新しく追加したユーザー名で指紋の登録をします。「指紋を登録する」手順4（→P.59）に戻り、指紋の登録をしてください。

重要 1 人で、複数の Windows ユーザー名を使い分ける場合

Windows のユーザー名を複数使い分ける場合、同じ指を重複して登録すると、正しく認証されません。必ず指を変えて指紋を登録してください。

指紋認証については、次のマニュアルもご覧ください。

参照 指紋認証を使ってユーザーを切り替える

『画面で見るマニュアル』»「000810」で検索
→「指紋認証を使う」→「指紋認証を使ってユーザーを切り替える」

指紋認証を使う

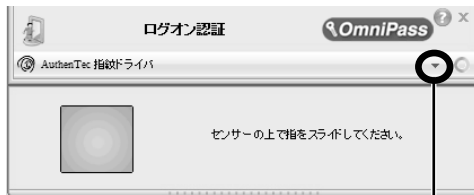
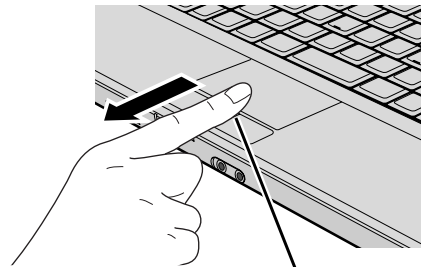
指紋認証を使って Windows にログオンする

指紋認証を使うと Windows ログオンパスワードを入力する代わりに、指紋センサーに指をスライドさせるだけで Windows にログオンできるようになります。
また、複数ユーザーでパソコンを使用している場合には、ユーザー選択も省略することができます。

1 電源ボタン（⏻）を押します。

Windows が起動すると「ログオン認証」画面が表示されます。

2 指紋登録した指のいずれかを指紋センサーにスライドさせます。

認証画面が表示されていない場合は、「ログオン認証」画面下部のプルダウンメニューから「AuthenTec 指紋ドライバ」を選択して、認証画面を表示させてください。

「ログオン認証」画面下部のプルダウンメニューから「AuthenTec 指紋ドライバ」を選択します。
また、認証ツールバーが表示されない場合は、ユーザーのアイコンをクリックするか、または「ユーザーの切り替え」ボタンをクリックしてログオン画面を切り替え、認証ツールバーを表示させてください。

指紋センサー

（イラストは機種や状況により異なります）

指紋の認証に成功すると、Windows にログオンします。

Point 指紋の読み取りがうまくいかない場合

・指紋センサーに指をスライドさせる方法を確認してください。スライドの方法については、「指のスライドのさせ方」（→P.56）をご覧ください。
・指を繰り返しスライドしても指紋認証に失敗する場合は、Windows のログオンパスワードを使ってログオンしてください。

指紋センサーについての注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
  - 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでつついたりした場合
  - 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
  - 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
  - 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 次のような場合は、指紋の読み取りが困難になったり、認証率が低下したりすることがあります。指紋センサー表面はときどき清掃してください。
  - 指紋センサー表面がほこりや皮脂などで汚れている
  - 指紋センサー表面に汗などの水分が付着している
  - 指紋センサー表面が結露している
- 指紋の登録失敗や認証失敗が頻発する場合は、指紋センサー表面の清掃を行ってください。現象が改善されることがあります。
- 指紋センサーを清掃する際には、メガネ拭きなどの乾いたやわらかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。
- 長期間使用することにより、センサー周辺にゴミがたまることがありますが、先のとがったもので取り除かないようにしてください。

指紋認証をお使いになる場合の注意

- 本機能は画像に含まれる指紋の特徴をもとに照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 指紋の登録には同一の指で最低 3 回の読み取りが必要です。異なる指で登録を行うと、認証できない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録が困難になったり、認証率（正しく指をスライドさせた際に指紋が認証される割合）が低下することがあります。なお、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、認証時の状況が改善されることがあります。
  - お風呂上がりなどで指がふやけている場合
  - 指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
  - 手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
  - 手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
  - 指が泥や油などで汚れている場合
  - 太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
  - 磨耗して指紋が薄くなった場合
  - 指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
  - 濡れたり、汗をかいたりしている場合
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。
- 認証率はお客様の使用状況により異なります。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋が正常に読み取れなかったときや、一定時間内に認証されなかったときは、警告メッセージが表示されます。
- 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保障するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

LAN（有線 LAN）機能を使う

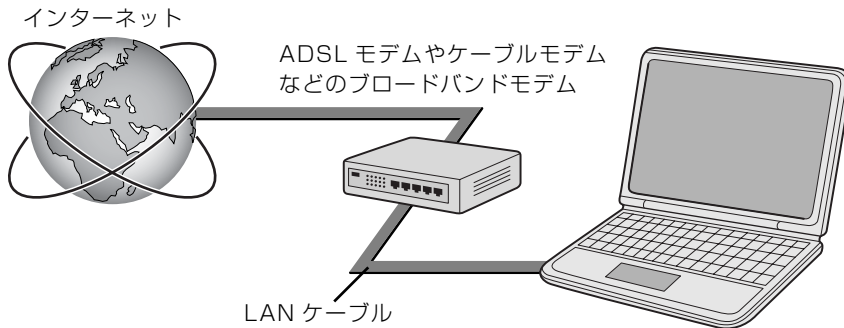
LAN［ラン］（有線 LAN）機能を使うための、LAN コネクタについて説明します。
ここでは、主にインターネットに接続する場合を例に説明します。

このパソコンの LAN 機能

このパソコンでは、次のものが標準で準備されています。

- LAN コネクタ（LAN ケーブル用）
  1000BASE-T［ベースティー］/100BASE-TX［ベースティーエックス］/10BASE-T 準拠

インターネットを使うときの接続例

次のイラストは、パソコンとブロードバンドモデムを LAN ケーブルで接続している一例です。ネットワークの形態によって使用する機器が異なりますので、ネットワークに合ったものをご購入ください。

ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照　ネットワークの種類やしくみについて

『画面で見るマニュアル』»「415040」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合

LAN（有線 LAN）をお使いになる場合に必要なものなどを説明します。
ここでは、ブロードバンドインターネットにパソコンを接続する例を説明します。

必要なものを用意する

このパソコンの他に、次のものが必要です。

- ブロードバンドモデム
  ADSL［エーディーエスエル］モデム、ケーブルモデムなど、インターネットの回線や、プロバイダにより異なります。
- ルーター
  異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークの中を流れるデータをきちんと目的の場所（パソコンやプリンタなど）に届けるための機器。一般的には、LAN と外部のネットワーク（インターネット）を結ぶために使われます。
  複数台のパソコンを接続する場合は必要です。ブロードバンドモデムに搭載されている場合もあります。
  なお、1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- ハブ
  ネットワーク上でケーブルを中継するための機器。
  複数台のパソコンを接続する場合に必要です。ルーターに搭載されている場合もあります。
  1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したものを使用してください。
- LAN ケーブル（ストレートタイプ）
  お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
  1000BASE-T の通信を行うためには、エンハンストカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

LAN を使うための設定

LAN をお使いになるためには、必要な機器を LAN ケーブルで接続し、ネットワークの設定を行います。インターネットに接続する場合は、プロバイダより提供されるマニュアルに従って、機器の設定をしてください。
接続、設定の方法については、次のマニュアルでも説明しています。

参照 有線 LAN の設定について

『画面で見るマニュアル』»「000100」で検索
→「LAN を使う」

無線 LAN 機能を使う

無線 LAN 搭載機種のみ

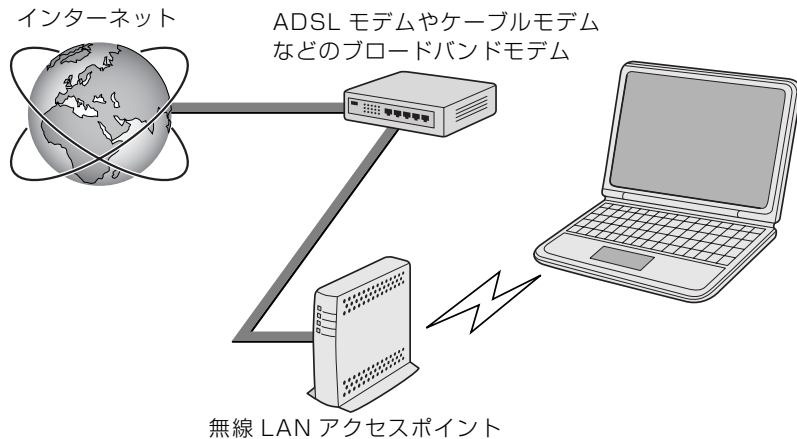
無線 LAN［ラン］機能について説明します。
ここでは、主にインターネットに接続する場合を例に説明します。

このパソコンの無線 LAN 機能

無線 LAN 搭載機種の場合、次の規格の無線 LAN(Wi-Fi®［ワイファイ］準拠）が搭載されています。

お使いの機種	IEEE 802.11a	IEEE 802.11b	IEEE 802.11g	IEEE 802.11n ドラフト 2.0
S/C50	－	○	○	○
S/C50Nで無線LANを選択した場合	－	○	○	○

インターネットを使うときの接続例

次のイラストは、ブロードバンドインターネットと接続している一例です。ネットワークの形態によって使用する機器が異なりますので、ネットワークに合ったものをご購入ください。

無線 LAN でインターネットに接続するには、無線 LAN アクセスポイントを利用する「インフラストラクチャ通信」という方式で通信します。
ブロードバンドモデムに電波を送受信する無線 LAN アクセスポイントを接続し、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの間を、LAN ケーブルの代わりに電波で送受信します。
ネットワークの種類やしくみについては、次のマニュアルをご覧ください。

参照 ネットワークの種類やしくみについて

『画面で見るマニュアル』»「415040」で検索
→「ネットワークの種類やしくみ」

無線 LAN をお使いになる場合

必要なものを用意する

無線 LAN を使うためには、このパソコンの他に次のものが必要です。

- 無線 LAN アクセスポイント
  LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用して情報のやり取りを行う無線 LAN では、「無線 LAN アクセスポイント」と呼ばれる機器が必要となります。

無線 LAN を使うための設定

無線 LAN を使うには、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの設定を行います。
初めて設定する場合は、使用するネットワークの情報やデータの暗号化などを、無線 LAN アクセスポイントとパソコンの両方に設定します。
すでにネットワークで使われている無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、無線 LAN アクセスポイントと同じ設定になるように、パソコンを設定します。

無線 LAN については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『スタートガイド2　セットアップ編』
→「インターネットを始めるための準備をする」

参照 無線 LAN の設定について

『画面で見るマニュアル』»「001000」で検索
→「無線 LAN を使う」

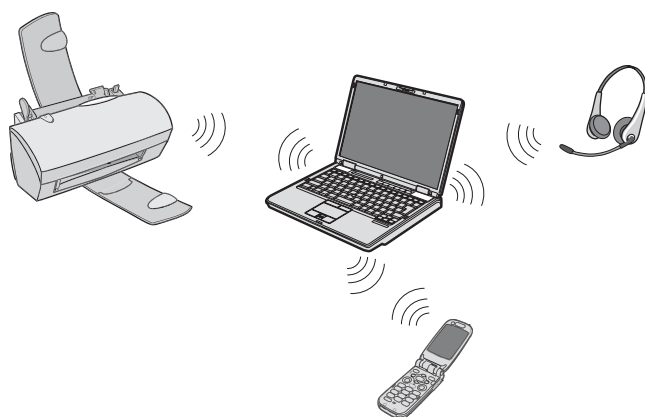
参照 別売の無線 LAN カードなどを使う

『画面で見るマニュアル』»「001020」で検索
→「別売の無線 LAN アダプタを使う」

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使う

このパソコンに内蔵の Bluetooth［ブルートゥース］ワイヤレステクノロジーを使用して、他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続することができます。ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて説明しています。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットや携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

必要なものを用意する

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器
  Bluetoothワイヤレステクノロジーを利用してこのパソコンと接続する機器です。Bluetoothワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。
  キーボード、マウス、プリンタ、ヘッドセット、携帯電話
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
  お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合には、次のマニュアルもご覧ください。

参照 **Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて**

『画面で見るマニュアル』»「001110」で検索
→「Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使う」

Web カメラを使う

このパソコンには、動画や静止画を撮影することのできるカメラが搭載されています。Webカメラを使って、動画や静止画を撮影したりテレビ電話を楽しむことができます。

Web カメラでできること

このパソコンの Web［ウェブ］カメラでは、主に次のことができます。

- 動画や静止画を撮影する（YouCam［ユーカム］）
  Web カメラで撮影した静止画のデータは、メールに添付することもできます。
- テレビ電話を楽しむ（Windows Live Messenger［ウィンドウズライブメッセンジャー］）
  インターネットに接続している仲間と、リアルタイムでメッセージの交換などもできます。

Point **明るい部屋で使用してください**

Web カメラを使用する場合は、部屋を明るくして使用してください。

Webカメラを使うソフトウェアの起動方法と使い方

YouCam

起動方法

　アイコン部分に軽く触れると、アイコンが光り、「YouCam」が起動します。

詳しい使い方については、「YouCam」のヘルプをご覧ください。
「YouCam」のヘルプは、メニューバーの「ヘルプ」→「アプリケーションヘルプ」の順にクリックすると表示します。

Windows Live Messenger

起動方法

1 (スタート)→「すべてのプログラム」→「@メニュー」→「@メニュー」の順にクリックします。

2「@メニュー」上部の「名前でさがす」をクリックし、左側にあるカテゴリの中から「インターネット」をクリックします。

3「Windows Live Messenger」をクリックします。

詳しくは、インターネットに接続した環境でウィンドウ右上の「ヘルプ」→「ヘルプトピックの表示」の順にクリックして「Windows Live Messenger」のヘルプをご覧ください。

Point **Windows Live Messenger について**

・「Windows Live Messenger」のご利用には、Windows Live ID の取得が必要です。
・「Windows Live Messenger」をこのパソコンよりアンインストールした場合、再度インストールするには「Windows Live Messenger」のホームページ(http://messenger.live.jp/)よりプログラムをダウンロードする必要があります。

各ソフトウェアのお問合せ先については、次のマニュアルをご覧ください。

参照

『サポート & サービスのご案内』
→「困ったとき」→「ソフトウェアのお問い合わせ先」

第3章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の使用上の注意やメモリの増やし方などを説明しています。目的に合わせてお読みください。

1　周辺機器をお使いになる場合 74
2　メモリの増設／交換 77

3

周辺機器をお使いになる場合

ここでは、周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

警告

・周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。
AC アダプタや電源コードがコンセントにつながっている場合は、それらをコンセントから抜いてください。
感電の原因となります。

・周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器とは？

USB［ユーエスビー］マウス、プリンタ、デジタルカメラ、メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン内部に取り付けたりします。

周辺機器を取り付けると

メモリを取り付けてパソコンの処理能力を上げたり、プリンタを接続して印刷したりなど、パソコンでできることがさらに広がります。
また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、E メールに添付したりできます。

周辺機器を取り付けるには

ここでは、「メモリの増設／交換」（→P.77）、「メモリーカードを使う」（→P.51）について記載しています。その他の周辺機器の接続については、『画面で見るマニュアル』でも紹介しています。

お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

参照 周辺機器の取り付けについて

『画面で見るマニュアル』
→「5. パソコン本体の取り扱い」
→「6. 周辺機器の接続」

「画面で見るマニュアル」で調べる

1 表示される画面の中から接続する周辺機器をクリックします。

例えば、プリンタを接続する場合は、「6. 周辺機器の接続」→「プリンタを接続する」をクリックします。

（機種や状況により異なります）

周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を接続するときは、次のことに注意してください。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
  周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。例えば、プリンタを使うには、取り付けた後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。周辺機器の接続は、このマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください。
- **ドライバなどがフロッピーディスクで添付されている場合**
  周辺機器によっては、添付のドライバなどがフロッピーディスクで提供されているものがあります。このパソコンには FDD［フロッピーディスクドライブ］は搭載されておりませんので、オプションの FDD ユニット（USB）をご購入になり、接続したうえでドライバをインストールしてください。
- **マニュアルをご覧ください**
  ケーブル類を接続する場合は、次のマニュアルをご覧になり、接続時に間違いがないようにしてください。

  参照 ケーブル類を接続する場合

  『画面で見るマニュアル』
  →「6. 周辺機器の接続」

  誤った接続状態で使用すると、パソコンや周辺機器が故障する原因となることがあります。
  また、「画面で見るマニュアル」で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。「画面で見るマニュアル」とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**
  弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEB MART」（http://www.fujitsu-webmart.com/）をご覧ください。
  他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPI［エーシーピーアイ］に対応した周辺機器をお使いください**
  このパソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
- **周辺機器の電源について**
  周辺機器の電源はパソコンの電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコンより後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **本体右側面の USB コネクタについて**
  USB 機器の形状によっては、パソコン本体右側面の USB コネクタに接続できないことがあります。

重要 周辺機器を取り付けるときの注意

・周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
・複数の周辺機器を取り付ける場合は、取り付けと設定を 1 つずつ行ってください。

メモリの増設／交換

メモリ容量を増やすことによって、パソコンの処理能力などを上げることができます。ここでは、メモリ容量を増やす方法について説明します。

Point 次の場合、メモリ容量を増やすことはできません

S/C50N のメモリの最大容量は 4GB のため、ご購入時に 4GB のメモリを選択した場合は、メモリ容量を増やすことができません。

必要なものを用意する

メモリ（拡張 RAM［ラム］モジュール）

FMVNM1GK2（1GB)、FMVNM2GK2（2GB）のメモリが取り付けられます。

プラスのドライバー（ドライバーサイズ：1 番）

このパソコンのネジを取り外すときに使います。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズ（M2.5）に合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリの組み合わせ表

ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンには、メモリを取り付ける場所（スロット）が2つ搭載されています。ご購入時のメモリの組み合わせは次のようになっています。

お使いの機種	総容量	スロット 1	スロット 2
S/C50	2GB	1GB	1GB
S/C50N（2GB を選択）	2GB	1GB	1GB
S/C50N（4GB を選択）	4GB	2GB	2GB

メモリの組み合わせ例

メモリを取り付けたり交換したりする場合は、次の表のように組み合わせてください。次の表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。
次の表の★印がある組み合わせでは、デュアルチャネルとして動作します。

総容量	スロット 1	スロット 2	デュアルチャネル
2GB	1GB	1GB	★[注 1]
	2GB	なし	
3GB	2GB	1GB	★[注 1]
4GB（最大）	2GB	2GB	★[注 2]

注 1：合計 2GB のデュアルチャネルとして動作します。
注 2：合計 4GB のデュアルチャネルとして動作します。

Point デュアルチャネルとは

同じ仕様のメモリを2枚取り付けると、理論上、2倍の転送速度でデータのやりとりが可能になり性能が向上します。取り付けたメモリの容量が異なる場合、少ない容量のメモリ分のみデュアルチャネルで動作します。

メモリ取り扱い上の注意

⚠警告

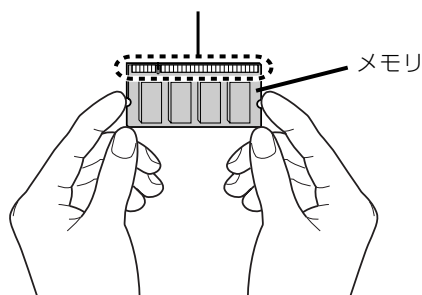
・メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、AC アダプタやバッテリ、周辺機器を取り外してください。スリープや休止状態では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。
また、データが消失したり、パソコンやメモリが故障する原因となります。

・取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠注意

・メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。
メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。火傷の原因になることがあります。

メモリを取り付けるときの注意

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- パソコンの部品など不要な物を、パソコン内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから再度メモリを取り付け直してください。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリは下図のようにふちを両手で持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となります。

メモリを増やす

メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けます。

1 パソコンの電源を切り、AC アダプタを取り外します。

電源の切り方は、「電源を切る」（P.23）をご覧ください。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

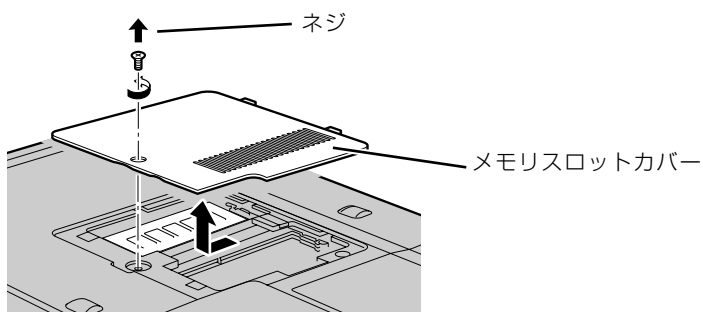
3 内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリの取り外し方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（P.32）をご覧ください。

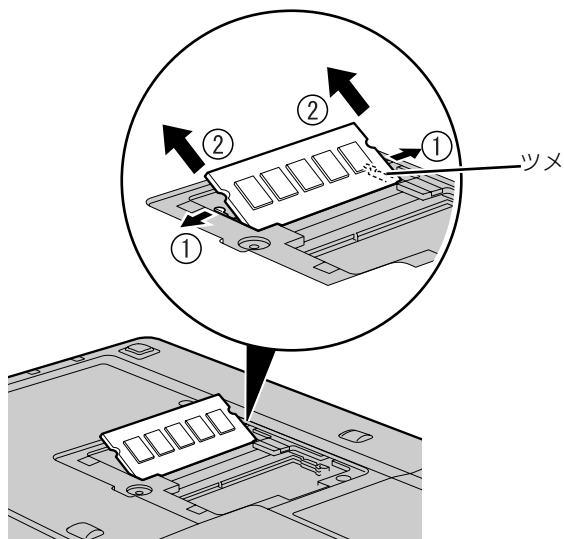
4 メモリの組み合わせを確認します。

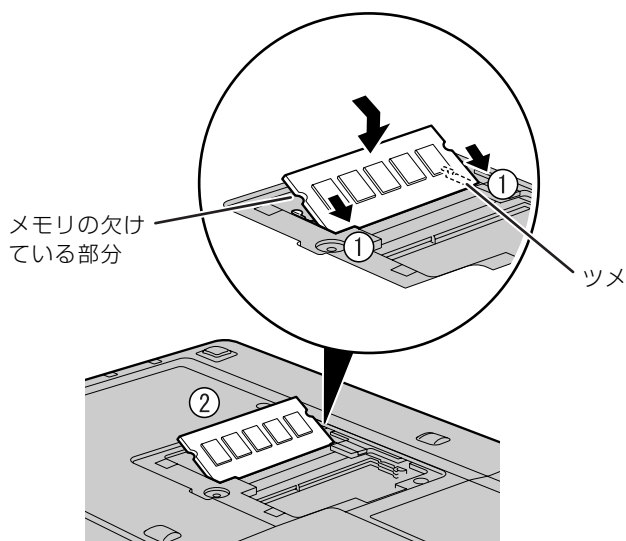
メモリの組み合わせについては、「メモリの組み合わせ表」（P.77）をご覧ください。
メモリを取り付けるときの注意（P.79）をご覧になり、作業を進めてください。

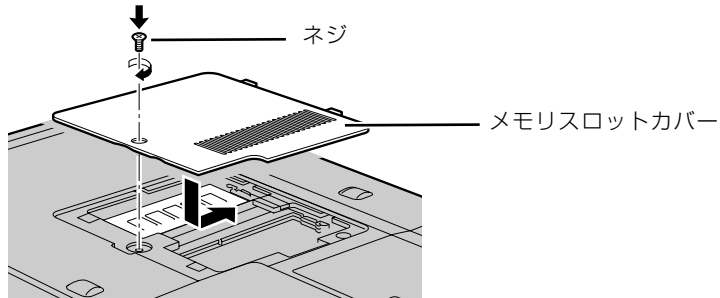
5 メモリスロットカバーを取り外します。

ネジ（1ヶ所）を取り外し、メモリスロットカバーを矢印の方向にスライドさせてから取り外します。

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

6 交換したいメモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメ（①）を左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。
両手でメモリのふちを持って斜め上の方向（②）に引っ張り、スロットから取り外します。

7 メモリを取り付けます。

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分とコネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み（①）、パチンと音がするまで下に倒します（②）。
メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

8 メモリスロットカバーを取り付けます。

カバーを取り付け、矢印の方向に少しスライドさせてネジ穴を合わせてから、ネジで固定します。

9 内蔵バッテリパックを取り付けます。

内蔵バッテリの取り付け方は、「内蔵バッテリパックを交換する」（→P.32）をご覧ください。
続いて、メモリが正しく取り付けられたか、メモリの容量を確認しましょう（→P.82）。

メモリ容量を確認する

1 パソコンの電源を入れます。

重要 Windows が正常に起動しない場合

メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源ボタンで電源を切り、メモリを取り付け直してください。

2 （スタート）→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 「システムとメンテナンス」をクリックします。

4 「システム」をクリックします。

5 ○で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

6 ウィンドウの右上にある をクリックして、ウィンドウを閉じます。

第4章

お手入れ

パソコン本体の日ごろのお手入れ方法について説明しています。

1　FMV のお手入れ . . . .　86

4

お手入れ

FMV のお手入れ

ここでは、FMVを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明しています。

パソコン本体および添付品のお手入れ

⚠警告

・感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
　・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタとバッテリを取り外してください。
　・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

・清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

重要　キーボードのキーとキーの間のホコリを取る場合

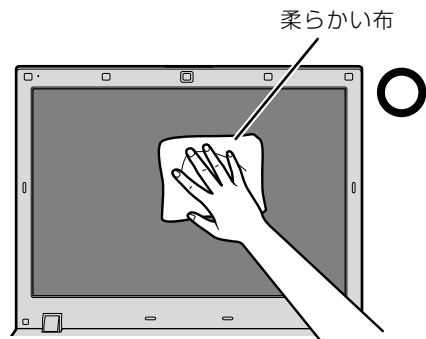
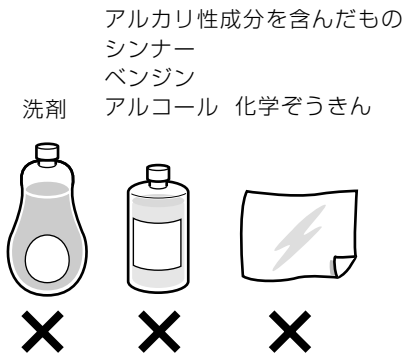
・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
・ホコリなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くホコリを取り除いてください。その際、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

パソコン本体やマウスの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体やマウスに水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
マウスのお手入れの際は、マウスをパソコン本体から取り外してください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

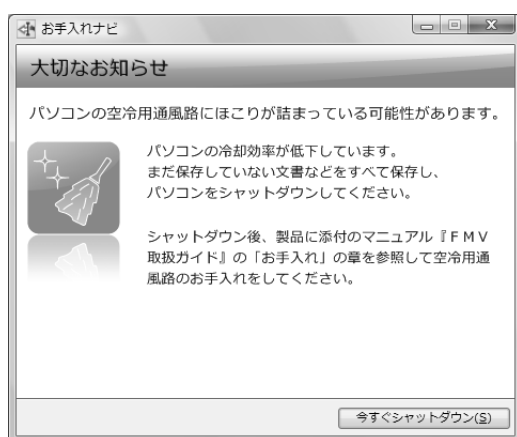
重要 液晶ディスプレイのお手入れを行う場合の注意

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 市販のクリーナーや化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
  - アルカリ性成分を含んだもの
  - 界面活性剤を含んだもの
  - アルコール成分を含んだもの
  - シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - 研磨剤を含むもの

CD/DVD ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、CD/DVDドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭きとることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

空冷用通風路のお手入れ

このパソコンは、性能を維持するために放熱用のファンを内蔵しています。放熱用ファンは、パソコンの外と内の間に空気の流れを作ってパソコン内部を冷却しているため、ご利用の環境によってはパソコン内部に周囲のほこりを取り込んでしまうことがあります。このほこりが徐々に蓄積していくと、パソコンが本来の性能を発揮できなくなる場合があります。
このパソコンでは、「お手入れナビ」というソフトウェアにより、パソコン内部の温度やパソコンの総利用時間をチェックすることによって、お手入れの時期をお知らせします。
「パソコンの空冷用通風路にほこりが詰まっている可能性があります。」というメッセージが表示された場合、この後の手順に従って正しく清掃を行い、ほこりを取り除いてください。

空冷用通風路の清掃方法

重要 充分に換気してください

清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

重要 次のことにご注意ください

- 洗剤は使用しないでください。
- 清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
- ほこりを取り除く際は、プラスチック製の楊子や歯間ブラシなどをお使いください。金属などの硬いものや、木製の折れやすいものなどを使うと故障の原因となります。

重要 静電気を放電してください

パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

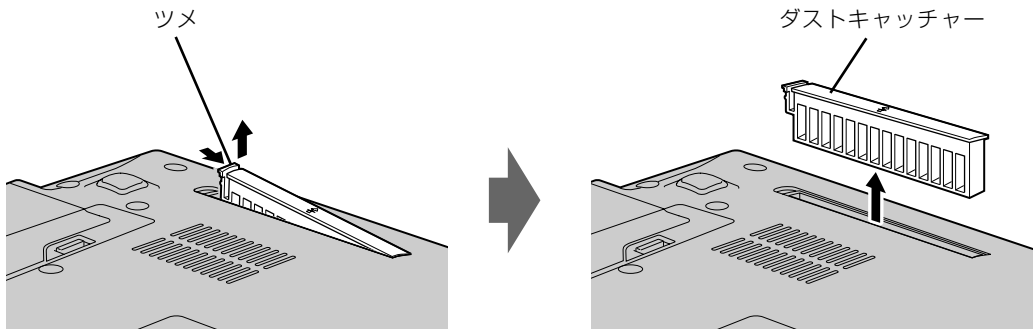
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

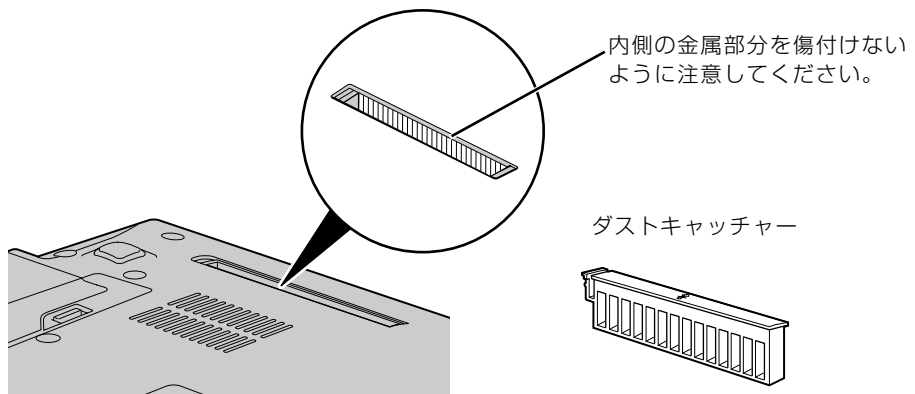
電源の切り方は、「電源を切る」（→P.23）をご覧ください。

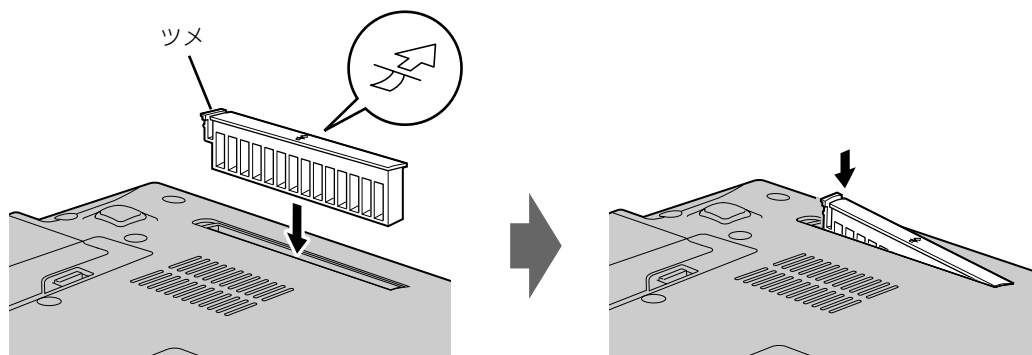
2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

液晶ディスプレイを閉じる場合は、文房具などを挟まないようにして静かに閉じてください。

3 ダストキャッチャーを取り外します。

ツメを矢印の方向に押しながら、ダストキャッチャーを取り外します。

4 ダストキャッチャーと空冷用通風路を清掃します。

ダストキャッチャーと空冷用通風路のほこりを取り除いてください。

5 ダストキャッチャーを取り付けます。

ダストキャッチャーをツメのない側から差し込み、カチッと音がするまでしっかりはめこみます。

ダストキャッチャーを取り外したまま使用しないでください。
取り外したまま使用すると、故障の原因となることがあります。

Point **メッセージ表示の設定**

以下の手順で、定期的にメッセージが表示されるように設定することもできます。
（スタート）→「すべてのプログラム」→「お手入れナビ」→「お手入れナビの設定」の順にクリックします。
「お手入れナビの設定」ウインドウが表示されますので、ウィンドウの説明に従って操作してください。

第5章

仕様一覧

パソコン本体の仕様を記載しています。
製品名称（品名）は、梱包箱に貼り付けられている保証書でご確認ください。

1　パソコン本体の仕様 92

次の表は各機種ごとの特徴を示しています。詳しい仕様については、次ページからの仕様一覧をご覧ください。

製品名称（品名）	USB レーザーマウス	モデム	無線 LAN	Web カメラ	Bluetooth
S/C50	○	×	○	○	○
S/C50N	△	×	△	○	○

○：添付または搭載、△：機能を選択した場合に添付または搭載、×：非添付または非搭載

パソコン本体の仕様

製品名称			FMV-BIBLO S/C50
CPU 注1			インテル® Core™2 Duo プロセッサー P8400
			2.26GHz
キャッシュメモリ			2次：3MB（CPU 内蔵）
チップセット			モバイル インテル® GM45 Express チップセット
システム・バス			1066MHz
メインメモリ			標準 2GB（1GB × 2） （PC3-8500 DDR3 SDRAM DIMM）デュアルチャネル対応、ECC なし　最大 4GB 注2
メモリスロット			× 2（空きスロットなし）
表示機能	グラフィックアクセラレータ		チップセットに内蔵（モバイル インテル GMA 4500MHD）
	ビデオメモリ		最大 783MB（メインメモリと共有）注3 注4
	液晶ディスプレイ注5		14.1 型ワイド TFT カラー 1280 × 800 ドット （スーパーファイン液晶）
	解像度／発色数注6		液晶ディスプレイ表示：1280 ×800 ドット／ 1677 万色 外部ディスプレイ表示：最大1920×1200 ドット／最大1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024×768 ドット／ 1677 万色
フロッピーディスクドライブ注7			FDD ユニット（USB）（別売）
ハードディスクドライブ注8			約 320GB（Serial ATA/150）注9
CD/DVD ドライブ注10			スーパーマルチドライブ
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注11、 サンプリング周波数　最大 96kHz、16 ビット（録音時）注11、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
	マイク		モノラルアナログマイク内蔵注12
キーボード			日本語キーボード （キーピッチ 約 19mm、キーストローク 約 3mm、86 キー、JIS 配列準拠）
ポインティングデバイス			フラットポイント（ジェスチャー機能対応）、 USB レーザーマウス添付
指紋センサー			スライド式／スクロール機能あり
ワンタッチボタン			Support ボタン、Internet ボタン、Mail ボタン、Eco ボタン、Camera ボタン搭載
Web カメラ			内蔵（有効画素数 約 130 万画素）
通信機能	LAN		1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠注13
	無線 LAN 注14	規格	IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n ドラフト2.0準拠、（Wi-Fi® 準拠）注15
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注16
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー		Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（→ P.96）をご覧ください。

製品名称			FMV-BIBLO S/C50
インターフェース	ExpressCard		× 1 スロット（ExpressCard/34 モジュール対応）
	SD メモリー カード / メモリースティック注 17		× 1 スロット
	外部ディスプレイ		アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1
	USB 注 18		USB2.0 準拠× 3（右側面× 2、左側面× 1）
	IEEE1394（DV）注 19		4 ピン× 1（S400）
	LAN		RJ-45 × 1
	HDMI 注 20		× 1(HDMI Ver1.2)
	オーディオ		ヘッドホン・ラインアウト兼用端子注 21：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック／マイク・ラインイン兼用端子注 22：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
	状態表示		LED
電源供給方式		AC アダプタ	入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（4.22A）
		バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン　10.8V ／ 5200mAh
バッテリ稼働時間（JEITA 測定法 1.0 注 23）			約 4 時間
バッテリ充電時間注 24			約 2.8 時間
消費電力注 25			約 21W ／約 92W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率注 26			I 区分 0.00024（AAA）注 27
外形寸法（幅×奥行×高さ）（突起部含まず）			338.0 × 250.0 × 36.0 ～ 39.0 mm
質量			約 2.5kg
盗難防止用ロック取り付け穴			あり
温湿度条件			温度 5 ～ 35℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 －10 ～ 60℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストール OS			Windows Vista Home Premium with SP1 正規版（DirectX 10 対応）
サポート OS 注 28			Windows Vista Ultimate with SP1 正規版、Windows Vista Home Premium with SP1 正規版

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（P.96）をご覧ください。

製品名称		FMV-BIBLO S/C50N	
		インテル® Core™2 Duo プロセッサー P8400 を選択した場合	**インテル® Core™2 Duo プロセッサー P9500 を選択した場合**
CPU 注1 ★		インテル® Core™2 Duo プロセッサー P8400	インテル® Core™2 Duo プロセッサー P9500
		2.26GHz	2.53GHz
キャッシュメモリ★		2次：3MB（CPU内蔵）	2次：6MB（CPU内蔵）
チップセット		モバイル インテル® GM45 Express チップセット	
システム・バス		1066MHz	
メインメモリ★		標準 2GB（1GB × 2）／標準 4GB（2GB × 2） （PC3-8500 DDR3 SDRAM DIMM）デュアルチャネル対応、ECC なし最大 4GB 注2	
メモリスロット		× 2（空きスロットなし）	
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵（モバイル インテル GMA 4500MHD）	
	ビデオメモリ	標準メモリ 2GB の場合：最大 783MB （メインメモリと共有）注3 注4 、 標準メモリ 4GB の場合：最大 1295MB（メインメモリと共有）注3	
	液晶ディスプレイ注5	14.1 型 ワイドTFTカラー 1280 ×800 ドット （スーパーファイン液晶）	
	解像度／発色数注6	液晶ディスプレイ表示：1280 × 800 ドット／ 1677 万色 外部ディスプレイ表示：最大 1920 × 1200 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：1024 × 768 ドット／ 1677 万色	
フロッピーディスクドライブ注7		FDD ユニット（USB）（別売）	
ハードディスクドライブ注8 ★		約 160GB ／約 250GB ／約 320GB （Serial ATA/150）注9	
CD/DVD ドライブ 注10		スーパーマルチドライブ	
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数　最大 192kHz、24 ビット（再生時）注11、 サンプリング周波数　最大 96kHz、16 ビット（録音時）注11、 同時録音再生機能	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
	スピーカー	ステレオスピーカー内蔵	
	マイク	モノラルアナログマイク内蔵注12	
キーボード		日本語キーボード （キーピッチ 約 19mm、キーストローク 約 3mm、86 キー、JIS 配列準拠）	
ポインティングデバイス★		フラットポイント（ジェスチャー機能対応） ご購入時の選択によっては、USB レーザーマウスが添付されます。	
指紋センサー		スライド式／スクロール機能あり	
ワンタッチボタン		Support ボタン、Internet ボタン、Mail ボタン、Eco ボタン、Camera ボタン搭載	
Web カメラ		内蔵（有効画素数 約 130 万画素）	

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART」でのみご購入いただける製品の仕様です。
★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（ P.96）をご覧ください。

製品名称			FMV-BIBLO S/C50N	
			インテル® Core™2 Duo プロセッサー P8400 を選択した場合	インテル® Core™2 Duo プロセッサー P9500 を選択した場合
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠注 13	
	無線 LAN 注 14 ★	規格	なし／ IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n ドラフト2.0準拠、（Wi-Fi® 準拠）注15	
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注 16	
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー		Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR	
インターフェース	ExpressCard		× 1 スロット （ExpressCard/34 モジュール対応）	
	PC カード		－	
	SD メモリーカード／メモリースティック注 17		× 1 スロット	
	外部ディスプレイ		アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1	
	USB 注 18		USB2.0 準拠× 3（右側面× 2、左側面× 1）	
	IEEE1394（DV）注 19		4 ピン× 1（S400）	
	LAN		RJ-45 × 1	
	HDMI 注 20		× 1（HDMI Ver1.2）	
	オーディオ		ヘッドホン・ラインアウト兼用端子注 21：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック／ マイク・ラインイン兼用端子注 22：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック	
	状態表示		LED	
電源供給方式		AC アダプタ	入力 AC100V ～ 240V、出力 DC19V（4.22A）	
		バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン、10.8V ／ 5200mAh	
バッテリ稼働時間 (JEITA 測定法 1.0 注 23)			約 4 時間	
バッテリ充電時間注 24			約 2.8 時間	
消費電力注 25			約21W/約92W	
省エネ法に基づく エネルギー消費効率注 26			I 区分 0.00024（AAA）注 27	区分0.00021（AAA）注27
外形寸法（幅×奥行×高さ） (突起部含まず)			338.0 × 250.0 × 36.0 ～ 39.0 mm	
質量			約 2.5kg	
盗難防止用ロック取り付け穴			あり	
温湿度条件			温度 5 ～ 35℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、 温度 －10 ～ 60℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）	
プレインストール OS			Windows Vista Home Premium with SP1 正規版（DirectX 10 対応）	
サポート OS 注 28			Windows Vista Ultimate with SP1 正規版、 Windows Vista Home Premium with SP1 正規版	

インターネットの富士通ショッピングサイト「WEB MART」でのみご購入いただける製品の仕様です。
★　ご購入時に選択したものをご覧ください。
パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
注記については、「仕様一覧の注記について」（→ P.96）をご覧ください。

仕様一覧の注記について

注 1　ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なることがあります。

注 2　・装置構成によっては、最大メモリ容量にするために、メモリスロットにあらかじめ搭載済のメモリを取り外して、別売の増設メモリを取り付ける必要があります。
・システムの画面上ではメモリ容量が 4.00GB と表示されても、OS が使用可能な領域は最大約 3GB になります。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
・取り付けるメモリの容量の組み合わせによってはシングルチャネルで動作します。

注 3　Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）を使用しており、パソコンの動作状況によりメモリ容量が最大設定まで変化します。

注 4　メインメモリを 4GB にした場合のメモリ容量は、最大 1295MB（メインメモリと共有）になります。

注 5　・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。
なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

注 6　グラフィックアクセラレータの出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。また、外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 7　フロッピーディスクは、フォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD（1.44MB, 1.2MB）と 2DD（720KB）です。なお、1.44MB 以外のフォーマットはできません。

注 8　容量は、1GB=1000^3 byte 換算値です。

注 9　このパソコンは Windows RE 領域に約 1GB の領域が占有されています。また、リカバリ領域に、約 16GB の領域が占有されています。そのため、「コンピュータ」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 17GB 少なく表示されます。
なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「トラブル解決ナビ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。

注 10　ドライブの主な仕様は次の通りです。
・ディスクによってはご利用になれない場合もあります。
・書き込み / 書き換え速度は、ドライブの性能値です。
・書き込み / 書き換え速度に対応したディスクが必要になりますが、対応ディスクは販売されていない場合があります。
・読み出し、書き込み速度はディスクや動作環境によって異なる場合があります。

スーパーマルチドライブ

CD/DVD	読み出し速度（最大）	書き込み／書き換え速度（最大）
CD-ROM	24 倍速	−
CD-R	24 倍速	書込 24 倍速
CD-RW	24 倍速	書換 10 倍速
DVD-ROM	8 倍速	−
DVD-R	8 倍速	書込 8 倍速
DVD-R DL	6 倍速（8.5GB）	書込 4 倍速（8.5GB）
DVD-RW	8 倍速	書換 6 倍速
DVD+R	8 倍速	書込 8 倍速
DVD+R DL	6 倍速（8.5GB）	書込 4 倍速（8.5GB）
DVD+RW	8 倍速	書換 8 倍速
DVD-RAM	5 倍速（4.7/9.4GB）	書換 5 倍速（4.7/9.4GB）

注 11　使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 12　内蔵マイクの音声は、スピーカー及びヘッドホン・ラインアウト兼用端子から直接出力できません。

注 13　・1000Mbps は 1000BASE-T の理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbps の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したハブが必要となります。また、LAN ケーブルには、1000BASE-T に対応したエンハンスドカテゴリ 5（カテゴリ 5E）以上の LAN ケーブルを使用してください。

注 14　無線 LAN の仕様については、次のマニュアルをご覧ください。
『画面で見るマニュアル』»「002000」で検索
→「無線 LAN の仕様」
注 15　Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
注 16　IEEE 802.11n ドラフト2.0準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
注 17　・SD メモリーカード、メモリースティックの同時使用はできません。
・すべての SD メモリーカード、メモリースティックの動作を保証するものではありません。
・メモリースティック、メモリースティック PRO、メモリースティック Duo などのメモリースティックでは、マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
・SD メモリーカード、miniSD カード、microSD カード、SDHC カードは、著作権保護機能（CPRM）に対応しています。
・マルチメディアカード（MMC）やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
・SDIO カードには対応していません。
・miniSD カード、microSD カード、メモリースティック Duo ／メモリースティック PRO Duo をお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずアダプタにセットしてからお使いください。
・2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC カードをお使いください。
注 18　すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
注 19　すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。
注 20　・すべての HDMI 端子のあるテレビへの表示を保証するものではありません。
・市販のテレビとの連動機能はありません。
注 21　OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。なお、仕様は次の通りです。
ヘッドホン出力時：出力 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω
ラインアウト出力時：出力 1V 以上、負荷インピーダンス 10kΩ 以上
注 22　OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。なお、仕様は次の通りです。
マイク入力時：入力 100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1kΩ 以上（DC）2kΩ 以上
ラインイン入力時：入力 1V 以下、入力インピーダンス 10kΩ 以上
注 23　社団法人 電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）』（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
注 24　電源 OFF またはスリープ時。なお、装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。
注 25　・動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）/ 最大消費電力です。また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
・電源 OFF 時の消費電力は、約 0.7W 以下です。なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
注 26　エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
注 27　・2007 年度基準で表示しています。
・カッコ内のアルファベットは、「A は 100%以上 200%未満、AA は 200%以上 500%未満、AAA は 500%以上」の省エネルギー基準達成率であることを示しています。
注 28　日本語 32 ビット版。

索引

A

AC アダプタ
　－接続する 18

B

Back Space キー 14
Bluetooth ワイヤレステクノロジー 70

C

Camera ボタン 9
Caps Lock キー 14
Caps Lock ランプ 15
CD. 42, 43
CD/DVD 取り出しボタン. 12

D

DC-IN コネクタ 12
Delete キー 14
DVD 42, 43

E

Eco ボタン. 9
Enter キー 14
Esc キー. 14
ExpressCard スロット 11

F

Fn キー 14

H

HDMI 出力端子 11

I

IEEE1394（DV）端子 11
Internet ボタン 9

L

LAN コネクタ. 12
LAN（有線 LAN）機能. 66

M

Mail メールボタン .9

N

Num Lk キー 14
Num Lk ランプ 15

S

Scroll Lock ランプ. 15
Shift キー. 14
Support ボタン. 9

U

USB コネクタ 11, 12
USB マウス. 74

W

Web カメラ 8, 71

あ行

インターネットボタン. 9

か行

カーソルキー 14
外部ディスプレイコネクタ. 11
各部名称. 7
クリック. 36

さ行

サポートボタン 9
指紋センサー 8
指紋センサーについての注意. 64
指紋認証. 56
仕様
　－パソコン本体 92
状態表示 LED 8, 15
スーパーマルチドライブ. 12
スクロール 38
スリープ. 26

た行

ダイレクト・メモリースロット 8
ダストキャッチャー 13
タップ. 36
ダブルクリック 37
ディスクアクセスランプ. 15
デジタルカメラ 74
電源
　－入れる 20
　－切る. 23
　－切れない場合 24
電源ボタン 8, 9
電源ランプ 15
盗難防止用ロック取り付け穴. 11
ドラッグ. 37

な行

内蔵 Bluetooth ワイヤレステクノロジー
アンテナ 10
内蔵マイク 8
内蔵無線 LAN アンテナ. 10

は行

排気孔. 11
バッテリ 29
バッテリ残量ランプ. 15, 30
バッテリ充電ランプ. 15, 30
バッテリパック 13, 32
半角／全角キー 14
ファンクションキー. 14
フラットポイント. 8
プリンタ 74
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子. 8
ポイント 37

ま行

マイク・ラインイン兼用端子 8
マウスポインタを移動させる 36
無線 LAN アンテナ 10
無線 LAN 機能 68
メモリ 77
メモリーカード 51
メモリスロット 13

わ行

ワイヤレススイッチ. .8
ワンタッチボタン. 9

FMV-BIBLO S/C50,S/C50N

ＦＭＶ取扱ガイド

B6FJ-0121-01-00

発 行 日　2008 年 12 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター
Printed in Japan

㋐0811-1

http://azby.fmworld.net/

FMVユーザーズクラブAzbyClub（登録・年会費無料）

FUJITSU

本製品はPC3R「PCグリーンラベル制度」の審査基準（2008年度版）を満たしています。
詳細は、Webサイト http://www.pc3r.jp をご覧ください。

T4988618620796

このマニュアルはリサイクルに配慮して印刷されています。
不要になった際は、回収・リサイクルにお出しください。